柏原市埋蔵文化財発掘調査概報

１９９４年度

１９９５年３月

柏原市教育委員会

はしがき

本年度は、柏原市教育委員会が埋蔵文化財担当職員を配置し、市独自で文化財行政に取り組み始めてから、15年めに当たります。当初は１名の担当者で始めましたが、その後、担当職員の増員、文化係としての独立、歴史資料館の開館、および高井田への移転と規模拡張、史跡高井田横穴公園のオープン等、徐々にではありますが、文化財行政も充実してまいりました。

文化財行政の主たる事業である埋蔵文化財の発掘調査も、以前の開発に追われる日々から考えると安定した状態にあり、本年度は届出件数は微増したものの、調査件数は若干減少しています。これは、これまでの調査によって、市内の埋蔵文化財が包蔵されている位置や深さをほぼ把握できるようになったことが大きな原因であり、15年間の調査の積み重ねによるものです。

今後は、埋蔵文化財のみならず、幅広い文化財を対象とした事業を進めていかなければならないと考えています。文化財の保存・管理や説明板・案内板の充実、普及啓蒙活動にも積極的に取り組み、市民の方々が文化財に関心をもち、文化財に親しんでいただけるような環境を整えるべく努力してまいりたいと考えております。これまでの15年間、市民の方々の御理解、御協力に感謝するとともに、今後より一層の御協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

平成７年３月

柏原市教育委員会

教育長　庖刀和秀

例　　言

1．本書は、柏原市教育委員会が平成６年度に国庫補助事業（総額2,500,000円、国補助率50％、府補助率25％、市負担率25％）として計画し、社会教育課文化係が実施した柏原市内遺跡群緊急発掘調査概要報告書である。

2．調査は、柏原市教育委員会社会教育課　北野　重、安村俊史、石田成年を担当者とし、平成６年４月20日に着手し、平成７年３月31日に終了した。

3．本書には、平成６年１月１日から同年12月31日までに着手した土木工事に伴う事前発掘調査のうち７件の概要とその他の調査の一覧を掲載した。なお、この期間内に文化財保護法第57条ー２および３に基づく届出・通知がなされたものは243件、その中で発掘調査を実施したものは51件、国庫補助事業として実施したものは36件である。

4．本文の執筆は安村、石田が、編集は安村が担当した。

5．本書図中の方位は磁北、標高はＴ．Ｐ．で表示した。

6．調査・整理の参加者は下記のとおりである。

米田　博	山中誠一	山田寛顕	寺川　款	生駒美洋子	奥野　清
谷口鉄治	分才隆司	酒井英利香	松尾洋平	百合藤厚子	阪口文子
槇原美智子	藤戸康代	有江マスミ	乃一敏恵		

目　　次

はしがき
例　　言
目　　次
1994年度柏原市内遺跡群発掘調査一覧
第１章　本郷遺跡 …… 1
　　94－２次調査 …… 2
第２章　太平寺遺跡 …… 4
　　94－２次調査 …… 5
第３章　安堂廃寺 …… 7
　　94－１次調査 …… 8
第４章　原山遺跡 …… 12
　　94－１次調査 …… 13
第５章　田辺遺跡 …… 15
　　94－１次調査 …… 16
　　94－３次調査 …… 18
　　94－５次調査 …… 20
調査対象地位置図

図　版　目　次

図版１　本郷遺跡94－２次調査
図版２　太平寺遺跡94－２次調査
図版３　安堂廃寺94－１次調査
図版４　安堂廃寺94－１次調査
図版５　安堂廃寺94－１次調査
図版６　原山遺跡94－１次調査
図版７　田辺遺跡94－１次調査
図版８　田辺遺跡94－３次調査
図版９　田辺遺跡94－５次調査

挿　図　目　次

図－1　本郷遺跡　調査対象地位置図 …… 1
図－2　本郷遺跡94－2次調査　調査区位置図 …… 2
図－3　本郷遺跡94－2次調査　平面図・土層図 …… 3
図－4　太平寺遺跡　調査対象地位置図 …… 4
図－5　太平寺遺跡94－2次調査　調査区位置図・出土遺物 …… 5
図－6　安堂廃寺　調査対象地位置図 …… 7
図－7　安堂廃寺94－1次調査　調査区位置図 …… 8
図－8　安堂廃寺94－1次調査　平面図・土層図 …… 9
図－9　安堂廃寺94－1次調査　石鏃 …… 10
図－10　安堂廃寺94－1次調査　出土土器 …… 10
図－11　安堂廃寺94－1次調査　出土瓦 …… 11
図－12　原山遺跡　調査対象地位置図 …… 12
図－13　原山遺跡94－1次調査　調査区位置図 …… 13
図－14　原山遺跡94－1次調査　平面図 …… 14
図－15　田辺遺跡　調査対象地位置図 …… 15
図－16　田辺遺跡94－1次調査　調査区位置図 …… 16
図－17　田辺遺跡94－1次調査　土層模式図 …… 17
図－18　田辺遺跡94－1次調査　出土遺物 …… 17
図－19　田辺遺跡94－3次調査　土層模式図 …… 18
図－20　田辺遺跡94－3次調査　調査区位置図 …… 18
図－21　田辺遺跡94－3次調査　出土遺物 …… 19
図－22　田辺遺跡94－3次調査　キセル …… 19
図－23　田辺遺跡94－5次調査　調査区位置図 …… 20
図－24　田辺遺跡94－5次調査　平面図・土層図 …… 20
図－25　山ノ井・平野・大県遺跡調査対象地位置図 …… 21
図－26　玉手山遺跡調査対象地位置図 …… 22
図－27　玉手山遺跡調査対象地位置図 …… 23
図－28　鳥取千軒遺跡・芝山古墳群調査対象地位置図 …… 24

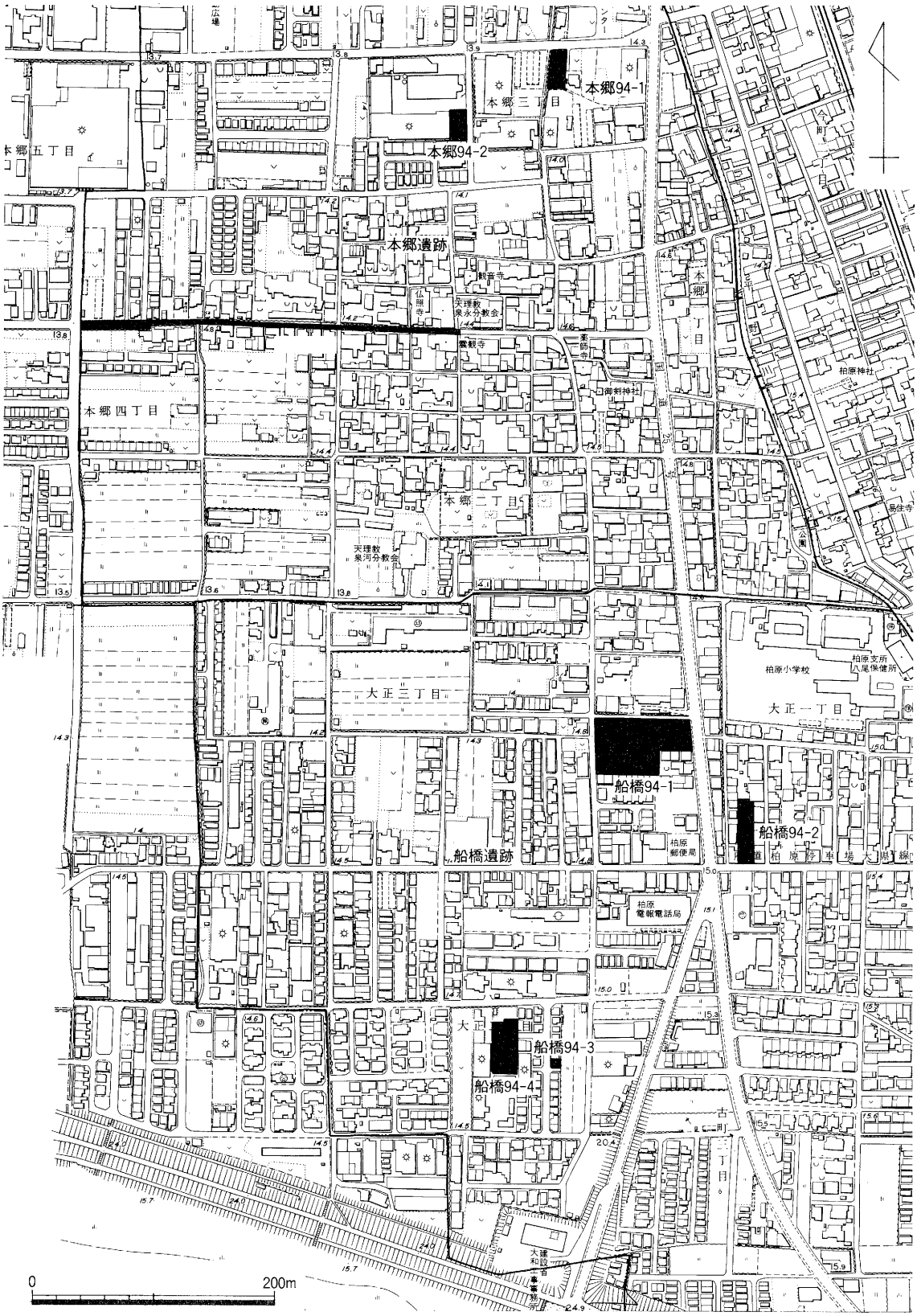
1994年度　柏原市内遺跡群発掘調査一覧

遺跡名	所在地	面積㎡	申請者	用途	担当	調査期日	備考
本郷94-1	本郷3丁目755-3	443.89	中川政一	共同住宅建設	安村	5.27	2×2×2.1mを調査。 地表下0.9mで中近世の包含層。
本郷94-2	本郷3丁目779-1、780-1の一部	366.55	松山賢治	個人住宅建設	安村	6.15	本書掲載。
船橋94-1	大正3丁目390-1	3143.85	近畿郵政局建築部長 辰田孝義	郵便局建設	石田	8.29～11.17	1400㎡を調査。 弥生～近世の遺構・遺物。
船橋94-2	大正1丁目402-5・6	553.80	辻野　茂　辻野叔秀	共同住宅建設	安村	10.21	1.5×2×2.3mを調査。 遺構・遺物なし。
船橋94-3	大正2丁目323-10	53.46	玉置　節子	個人住宅建設	安村	11.1	1×2×1.5mを調査。 遺構・遺物なし。
船橋94-4	大正2丁目326-6	919.51	山田住宅㈱ ㈹山田正太郎	分譲住宅建設	石田	12.6	1.5×2×1.5mを調査。 土器片。
山ノ井94-1	山ノ井町720-3の一部	102.12	深井庸介	個人住宅建設	安村	11.14	0.8×1.5×1.1mを調査。 遺構・遺物なし。
平野94-1	平野2丁目495-7	130.92	奥村貞雄	個人住宅建設	安村	2.1	1.5×2×1.2mを調査。 遺構・遺物なし。
平野94-2	山ノ井町568-4・570-1・2・3・11、571-1、566-1の一部	1609.28	真栄住宅㈱ ㈹中山真治	宅地造成	安村	6.6	2×3×2.8mを調査。 古墳～中世の遺物。
平野94-3	平野2丁目490-3・31	186.06	高津由之　宮川忠明	個人住宅建設	安村	8.18	1.6×2×1.3mを調査。 遺構・遺物なし。
平野94-4	法善寺2丁目168-7	649.46	㈱関西センター ㈹早川　徹	共同住宅建設	石田	1.25	2×3×3.5mを調査。 遺構・遺物なし。
大県94-1	平野1丁目、2丁目地内	350	柏原市長 山西敏一	下水道	北野	2.28～3.28	28㎡を調査。 古墳時代の包含層。
大県94-2	平野1丁目74-1	1315.35	田中登史子	共同住宅建設	石田	2.9	1.5×2×2mを調査。 遺構・遺物なし。
大県94-3	平野1丁目104-2の一部	548.36	山下政司	共同住宅建設	石田	5.23	2×2×1mを調査。 遺構・遺物なし。
大県94-4	大県3丁目159-15	154.95	大県東代表区長 檀田　勤	老人会館建設	北野	9.19	1.5×2×2.2mを調査。 遺構・遺物なし。
大県94-5	大県4丁目172-2	196.36	前田隆史	共同住宅建設	石田	11.11	1.5×2.4×1.1mを調査。 古墳～飛鳥時代の包含層。
大県南94-1	大県3丁目250-2	891.73	㈱弘生住宅 ㈹上田勝康	分譲住宅建設	石田	2.4	1×2×2mを2箇所調査。 遺構・遺物なし。
大県南94-2	大県3丁目575-1	782.50	中野一雄　中野三郎	共同住宅建設	安村	6.13	1.5×2×2.4mを調査。 遺構・遺物なし。
大県南94-3	大県3丁目349-1	359.48	山谷剛三	共同住宅建設	石田	8.1	2×2×2mを調査。 遺構・遺物なし。
大県南94-4	大県4丁目660-3、661、662-1他	2995	八幸産業㈱ 日本ポットグレープ㈱	共同住宅建設	石田	9.5～10.28	540㎡を調査。 古墳～中世の遺構・遺物。
太平寺94-1	太平寺1丁目63-1、66-1の一部	2007.34	中辻信太郎	共同住宅建設	石田	4.20	2×2×2.5mを2箇所調査。 地表下1.8mで飛鳥～奈良時代の包含層。
太平寺94-2	太平寺2丁目928-1	384.38	安田幹雄	共同住宅建設	石田	8.29～8.30	本書掲載。
太平寺94-3	太平寺2丁目255-14	76.09	森　基泰	個人住宅建設	安村	12.26	1.5×1.5×0.9mを調査。 奈良時代～近世の遺物。
鳥取千軒94-1	青谷604-3	281.01	山口　勇	個人住宅建設	安村	8.19	1.5×1.5×0.4mを調査。 遺構・遺物なし。
大県南廃寺94-1	大県4丁目地内	300	大阪府八尾土木事務所 所長　表谷賢司	砂防流路工	安村	10.12	1.5×2×3mを調査。 地表下2.5mで奈良時代の包含層。
太平寺廃寺94-1	太平寺2丁目381-15、382-9	642.20	山田住宅㈱ ㈹山田正太郎	分譲住宅建設	安村	10.6	1×2×1.6mを調査。 地表下1.2mで奈良時代の包含層。

遺跡名	所在地	面積㎡	申請者	用途	担当	調査期日	備考
安堂廃寺94-1	安堂町668-9	125.62	浅野邦直	個人住宅建設	安村	1.17～1.26	本書掲載。
平尾山古墳群94-1	平野853他25筆	300000	柏原市長 山西敏一	新規野外活動施設	北野	7.11～9.16	15箇所計1200㎡を調査。 古墳時代の遺構・遺物。
高井田横穴群94-1	高井田1556-2	1335.52	㈱日の出建設 ㈹石井　實	共同住宅建設	石田	8.25	2×6×2.5mを調査。 遺構・遺物なし。
玉手山94-1	旭ケ丘2丁目294-19	124.58	坂本隆生	個人住宅建設	安村	1.14	1.5×1.5×0.3mを調査。 遺構・遺物なし。
玉手山94-2	玉手町115-43	300.73	三谷滋伸建築事務所	個人住宅建設	安村	3.9	1.5×1.5×0.3mを調査。 遺構・遺物なし。
玉手山94-3	旭ケ丘2丁目4867-1，4868,4869-1	1332.33	青山忠信	共同住宅建設	石田	4.26～5.6	1.5×6×1.8mを調査。 遺構・遺物なし。
玉手山94-4	円明町485、486、487	452.41	宗教法人稲葉山円光寺 ㈹森佳覚	墓地造成	石田	5.2	2×2×0.3mを調査。 遺構・遺物なし。
玉手山94-5	玉手町145-23・26・39の一部	249.04	玉手山町会 区長　大西　巌	集会所建設	石田	5.24～5.27	9㎡を調査。 古墳時代の遺物。
玉手山94-6	旭ケ丘2丁目369-17	122.83	後藤熊雄	個人住宅建設	安村	6.3	1.5×1.5×0.3mを調査。 遺構・遺物なし。
玉手山94-7	旭ケ丘2丁目240-9の一部	359.73	西村嘉彦	共同住宅建設	石田	8.22	1.2×5.5×1mを調査。 遺構・遺物なし。
玉手山94-8	玉手町140-4の一部	59.15	竹村　進	個人住宅建設	安村	12.13	1.5×1.5×0.7mを調査。 遺構・遺物なし。
玉手山94-9	円明町109-1、110-5	239.84	居村浩明	個人住宅建設	安村	12.20	1.5×1.5mを2箇所調査。 近世の遺構・遺物。
片山廃寺94-1	片山町地内	350	柏原市長 山西敏一	下水道	北野	2.28～3.28	28㎡を調査。 古墳時代の遺構・遺物。
片山廃寺94-2	玉手町、片山町地内	485	柏原市長 山西敏一	下水道	北野	2.3～2.25	2×2mを3箇所調査。 飛鳥～奈良時代の遺物。
片山廃寺94-3	片山町175の一部	80.40	㈱吉友鉄建 ㈹吉原　勲	個人住宅建設	安村	3.24	1.5×1.5×1mを調査。 遺構・遺物なし。
片山廃寺94-4	片山町175の一部	112.38	㈱吉友鉄建 ㈹吉原　勲	個人住宅建設	安村	3.24	1.5×1.5×1.1mを調査。 遺構・遺物なし。
原山94-1	旭ケ丘3丁目4839-5	207.63	倉　彰、ゑみ子	個人住宅建設	安村	7.7	本書掲載。
田辺94-1	国分本町6丁目1463の一部	302.67	寺西議三郎	個人住宅建設	安村	3.17	本書掲載。
田辺94-2	国分本町5丁目1505-5、1515の一部	146.06	栗牧勝男	個人住宅建設	安村	3.22	1.5×1.5×0.6mを調査。 古墳～飛鳥時代の遺物。
田辺94-3	国分本町5丁目1515の一部	172.92	岡本圭右	個人住宅建設	安村	3.22	本書掲載。
田辺94-4	国分本町7丁目833-1他70筆	14605	柏原市長 山西敏一	受水槽等建設	北野	6.7～6.8	1×3.6×1mを2箇所調査。 古墳時代の遺物。
田辺94-5	国分本町6丁目1464-1	133.58	寺田省三	個人住宅建設	安村	10.3	本書掲載。
田辺94-6	国分本町6丁目11-4	130	柏原市長 山西敏一	図書室等建設	北野	10.24～11.17	5×8×0.5mを調査。 古墳～中世の遺構・遺物。
田辺94-7	国分本町7丁目1933	763.75	阿弥陀寺 住職　伊藤順雄	寺院建設	石田	11.2	1.2×2.5×0.7mを調査。 古墳～奈良時代の遺物。
芝山古墳群94-1	国分市場1丁目3259～3262	1299.01	㈱池田組 ㈹池田正知	工場建設	石田	2.7	2×2×2mを調査。 遺構・遺物なし。

（但し1994年1月1日から12月31日に着手したもの）

第１章　本郷遺跡



図－１　調査対象地位置図

94－2次調査

・調査対象地　　柏原市本郷3丁目779－1、780－1の一部

・調査期間　　1994年6月15日

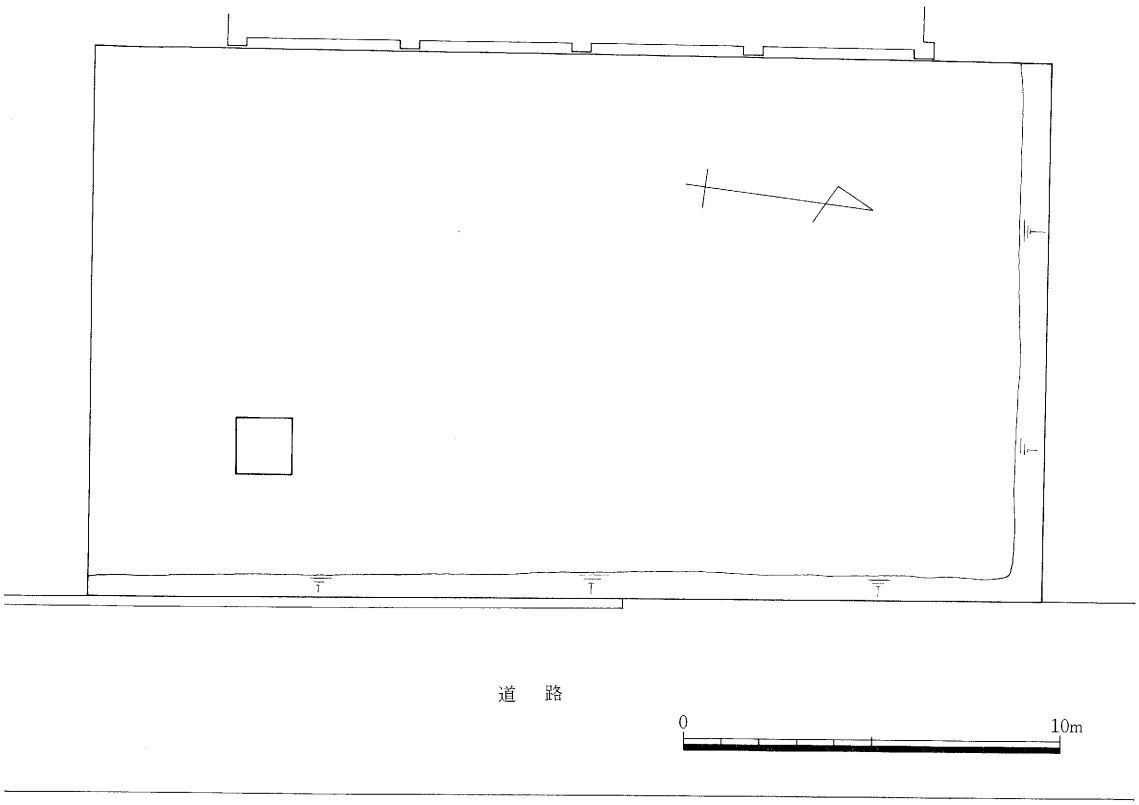
・調査面積　　2.3㎡／366.55㎡

・調査担当者　　安村俊史

調査対象地南東部に1.5m四方の調査区を設定し、調査を実施した。地表下95㎝までは盛土が続き、その下に10㎝の厚さの灰褐色砂質土がみられるが、遺物を含んでいないため、時期は不明である。更にその下には、20～25㎝の厚さの褐色粘質土がみられ、この褐色粘質土上面から、2つの遺構が掘り込まれている。

調査区西側で南北にのびる遺構は、調査区外へ続いているため全容は不明であるが、おそらく溝であろう。埋土は淡黄灰色細砂で、湧水がみられる。遺構の深さは、最も深い部分で37㎝を測る。壁面は垂直に近く落ち込んでいるが、底はU字状を呈しており、西端で底面が緩やかに高くなっていることから、遺構の幅は50㎝前後になるのではないかと考えられる。遺物が全く出土しておらず、時期は不明であるが、埋土の状態などから、耕作に伴う溝ではないかと考えられる。

調査区東端でも、灰白色細砂を埋土とする遺構の一部を検出しているが、その全容は不明である。

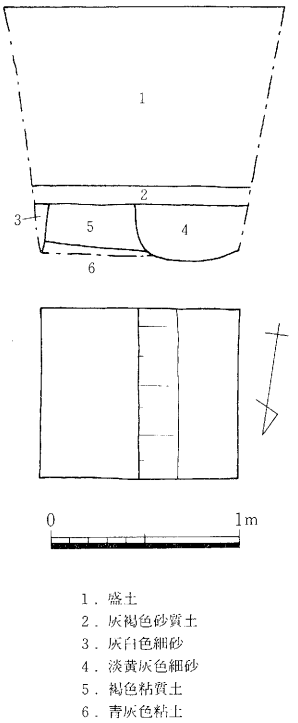


図－2　調査区位置図

上記の遺構よりも、壁面の角度が急なようである。やはり遺物は出土しておらず、時期は不明である。

この遺構面となっている褐色粘質土からは、少量の遺物が出土している。遺物は、サヌカイト片、須恵器片、土師器片、瓦器片であり、須恵器は７世紀代の長頸壺の肩部、瓦器は椀の口縁部であるが、年代までは確定できない。このように、少量の遺物であり、時期を確定できる資料にも欠けるが、瓦器の存在から、中世の遺物包含層と考えられる。よって、上記の遺構は、おそらく近世の耕作に伴う遺構と考えることができる。

褐色粘質土の更に下層には青灰色粘土層がみられるが、一部を掘り下げただけであるので、その時期や性格は不明である。もちろん遺物も出土していない。

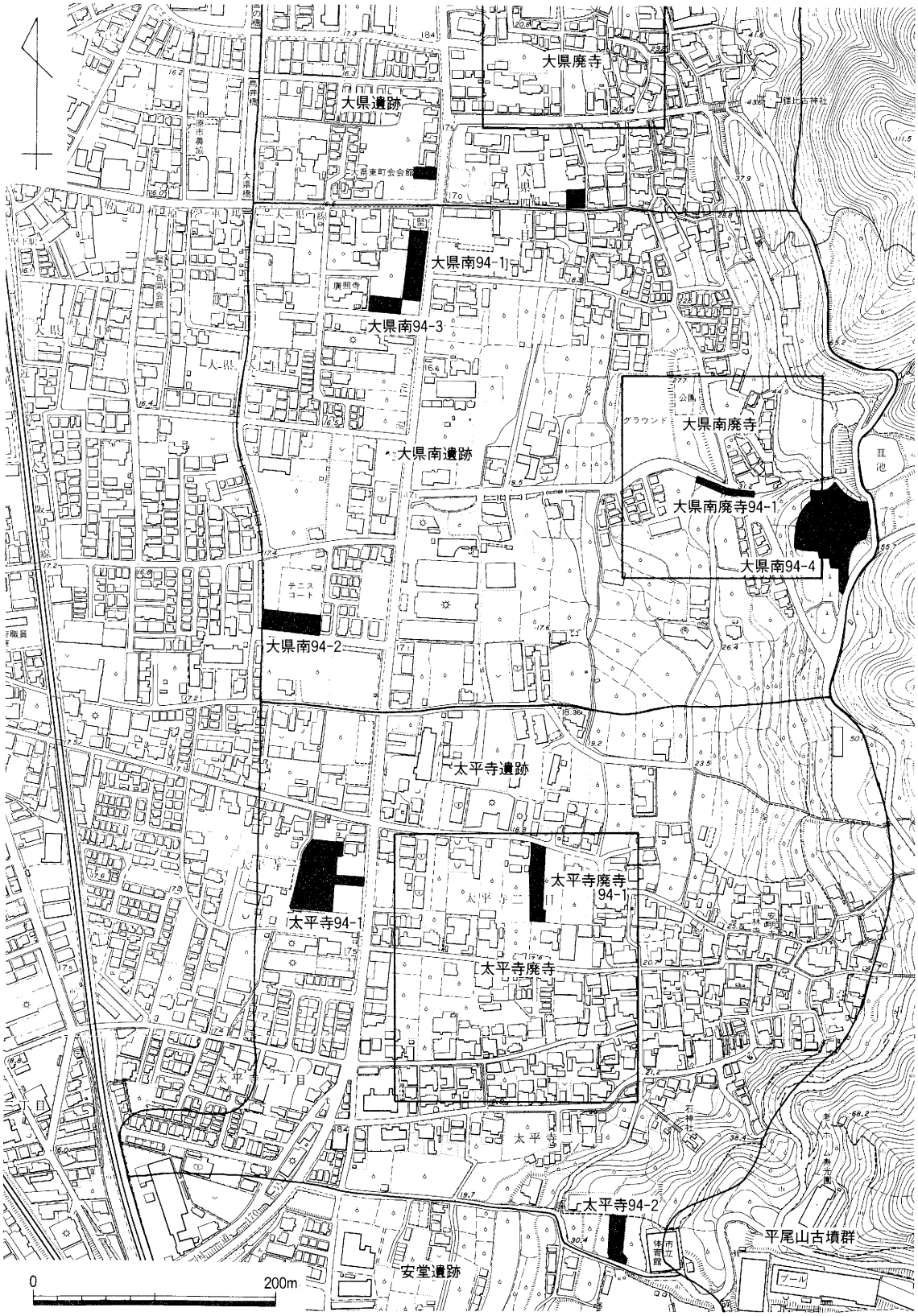


図－３　平面図・土層図

本郷遺跡から船橋遺跡にかけて、これまでの調査で、近世と考えられる溝状の遺構が多数検出されている。おそらく、何らかの耕作に伴う溝と考えられるが、その性格はまだ確認できていない。幅１ｍ前後で、壁面が垂直に落ち込むタイプが多く、深さはさまざまであるが、１ｍ弱のものが多い。これらの遺構に比べると、今回検出した遺構は、若干規模が小さいようであるが、共通点として、いずれも均質の砂を埋土としていることがあげられる。あたかも洪水で一気に埋まったようであるが、この辺にその性格を判断する鍵が隠されているように思われる。

本郷遺跡では、比較的遺構面が深く、大規模な調査を実施することが少ないが、今回の調査で、現地表下１ｍ前後と浅い部分にも、近世の遺構や中世の遺物包含層が存在することが確認できたことは、成果であった。

第２章　太平寺遺跡



図－４　調査対象地位置図

94－2次調査

・調査対象地　　柏原市太平寺2丁目928－1

・調査期日　　1994年8月29日～8月30日

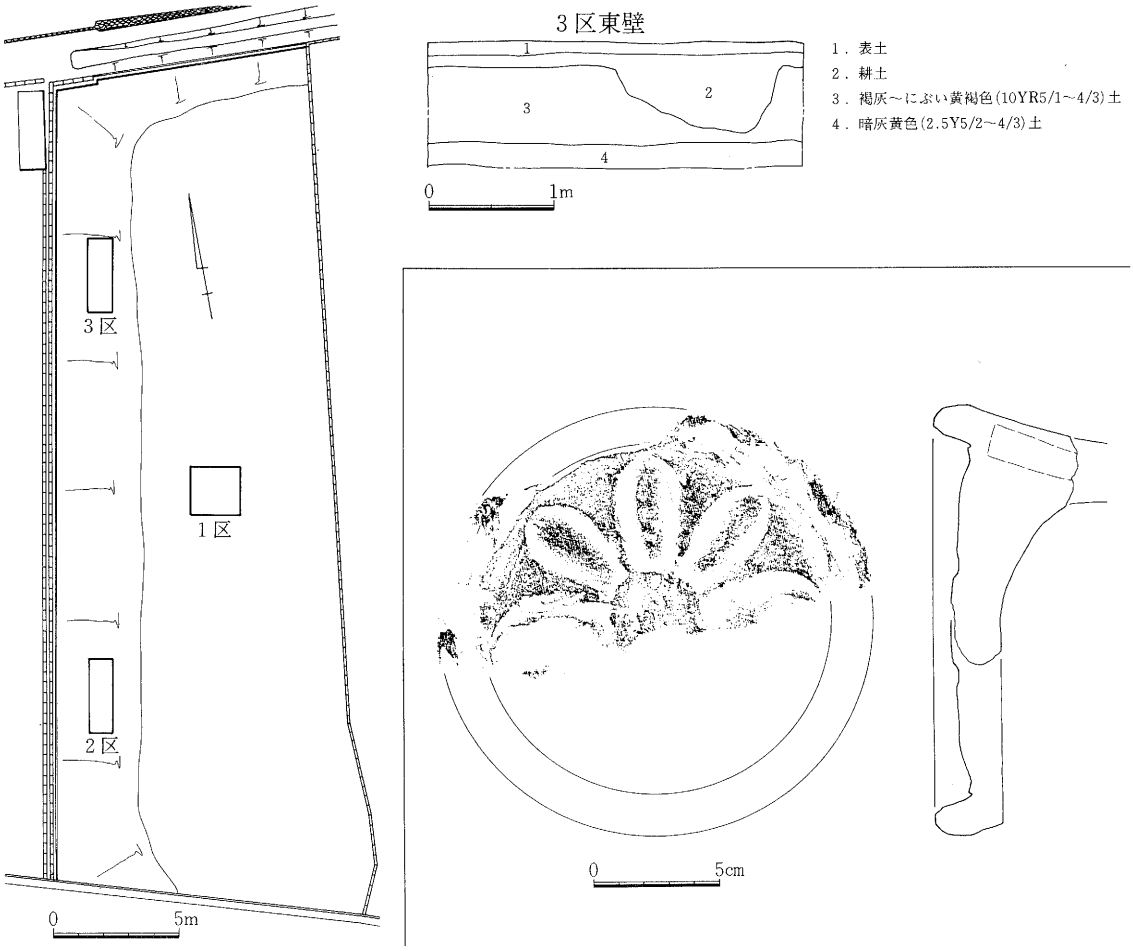
・調査面積　　10㎡／384.38㎡

・調査担当者　　石田成年

当該調査は安田幹男氏の依頼による共同住宅建設に伴う事前発掘調査である。現況は畑地である。

対象地は生駒山地から派生する小規模な尾根の南側にある。標高は35m前後。従来、ぶどう畑であったことから、その開墾により旧地形は既に失われているものと考えられた。

対象地の東50mに柏原市立第二体育館（武道館）がある。1983年12月、太平寺・安堂遺跡83－4次調査として館建設に伴い実施した発掘調査[1)]により、遺構として6世紀の古墳の墓道あるいは周溝と思われる溝、6世紀後葉から7世紀後葉にかけての建物群、8世紀前葉頃から10世紀にかけての古墓群を検出した。また遺物として、土器類、埴輪、木棺片、鞴羽口、鉄滓、銅滓、古墓に伴う水晶玉、銅銭等の出土があった。古墳から建物群、そして古墓群へと変わる土地利用の変遷過程から、在地勢力の交替を考古学的現象のなかで想定できる調査であった。



図－5　調査区位置図・出土遺物

調査は、まず試掘として3箇所の調査区を設定し、その結果を踏まえて必要となれば全域を対象とした発掘調査を実施することとして着手した。

1区は対象地中央に2m四方で設定し、人力により現地表下50cmまで掘削した。同35cmまでは表土と耕土で、以下褐色（7.5YR4/6）[2]土、褐灰～黒褐色（10YR5/1～3/2）土、褐灰～にぶい黄褐色（10YR5/1～4/3）土の順で、それぞれ小片の遺物を含む。各層の上面で精査し遺構の検出につとめたが、認められなかった。建物基礎が掘削深度内に納まることから以下は掘削しなかった。2区、3区は対象地の西辺、擁壁予定箇所にあたる。それぞれ人力により現地表下100cmまで掘削した。上層より表土、耕土、褐灰～にぶい黄褐色（10YR5/1～4/3）土、暗灰黄色（2.5Y5/2～4/3）土の順である。3区の北端で地山状の花崗岩質がわずかにのぞく。図示した3区東壁に見られる3層を穿つ土坑は、ぶどう栽培時の作業痕と思われる。他、遺構は認められなかった。

遺物は図示できない細片が多い。図示した単弁八葉蓮華文軒丸瓦は3区3層からの出土である。復元直径は17.2cmで、にぶい褐色（7.5YR5/4）を呈する。同笵とみられる軒丸瓦が、当該地から北120mの智識寺（太平寺廃寺）、南200mの家原寺（安堂廃寺）から出土している[3]。

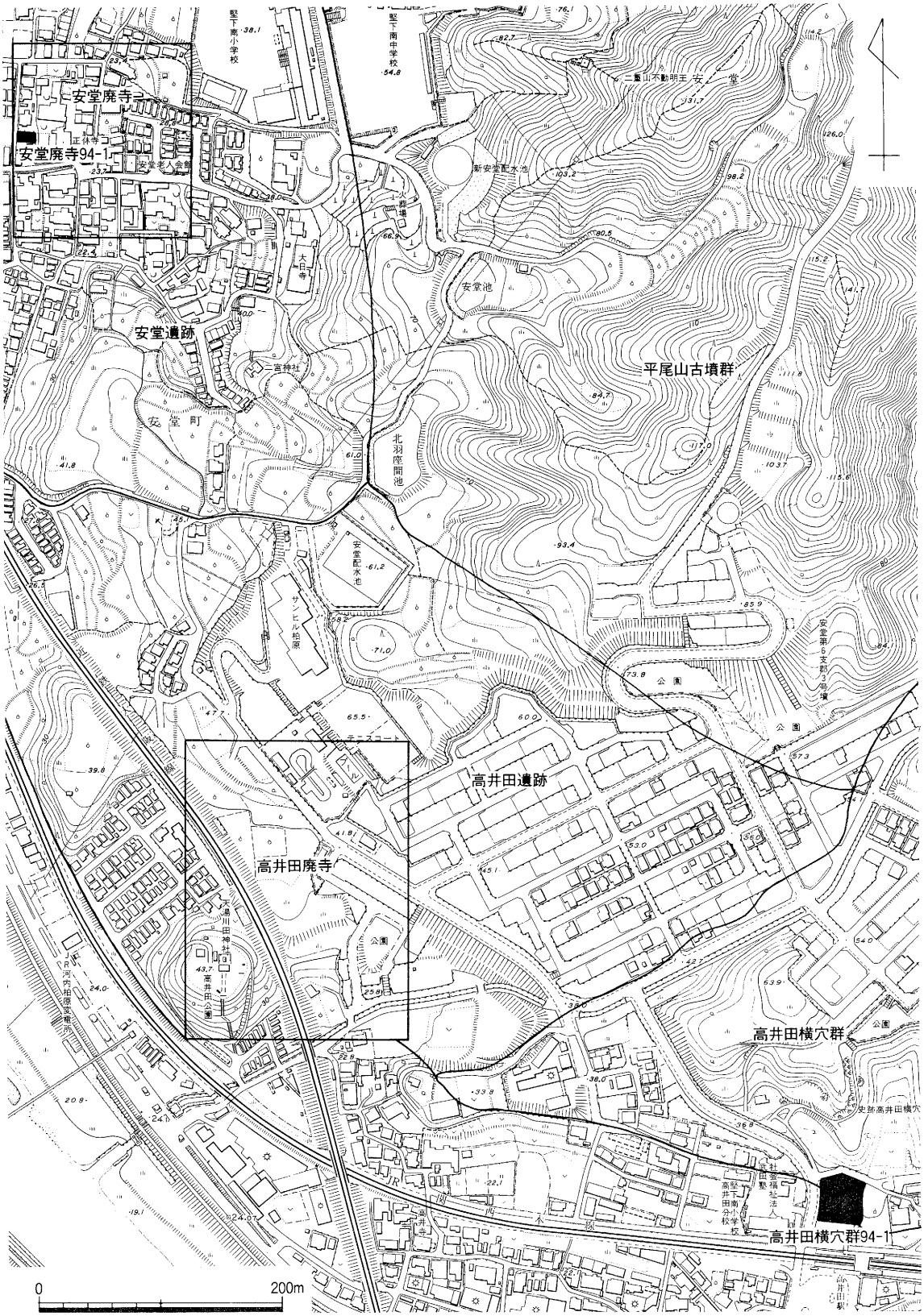
本調査により、従前より生活地とはなり得ない場所であったのか、あるいは地形の改変を大きく受け既に旧地形が失われてしまったのか、当該地においては遺構は認められなかった。よって工事時に盛土されることも勘案し、建築物による遺跡への影響はないものと判断して本調査をもって発掘調査の完了とした。

1）柏原市教育委員会『太平寺・安堂遺跡　1983年度』1984

2）本章で用いた色調の表現は「新版標準土色帖」12版（1992）による。

3）大阪府教育委員会、柏原市教育委員会『柏原市東山地区における遺跡分布調査報告書』1980
柏原市歴史資料館『柏原の古代寺院址』1985
藤井寺市教育委員会　上田睦氏の御教示による。

第３章　安堂廃寺



図－６　調査対象地位置図

94－1次調査

・調査対象地　　柏原市安堂町668－9

・調査期間　　1994年1月17日～1月26日

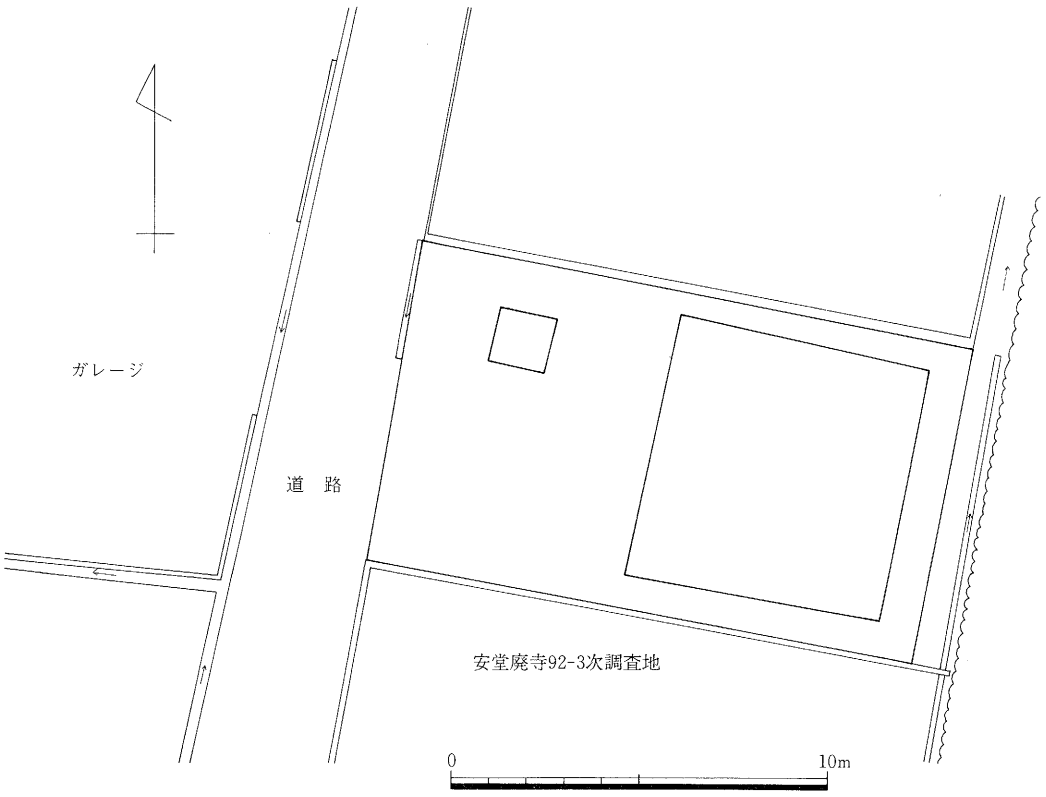
・調査面積　　51㎡／125.62㎡

・調査担当者　　安村俊史

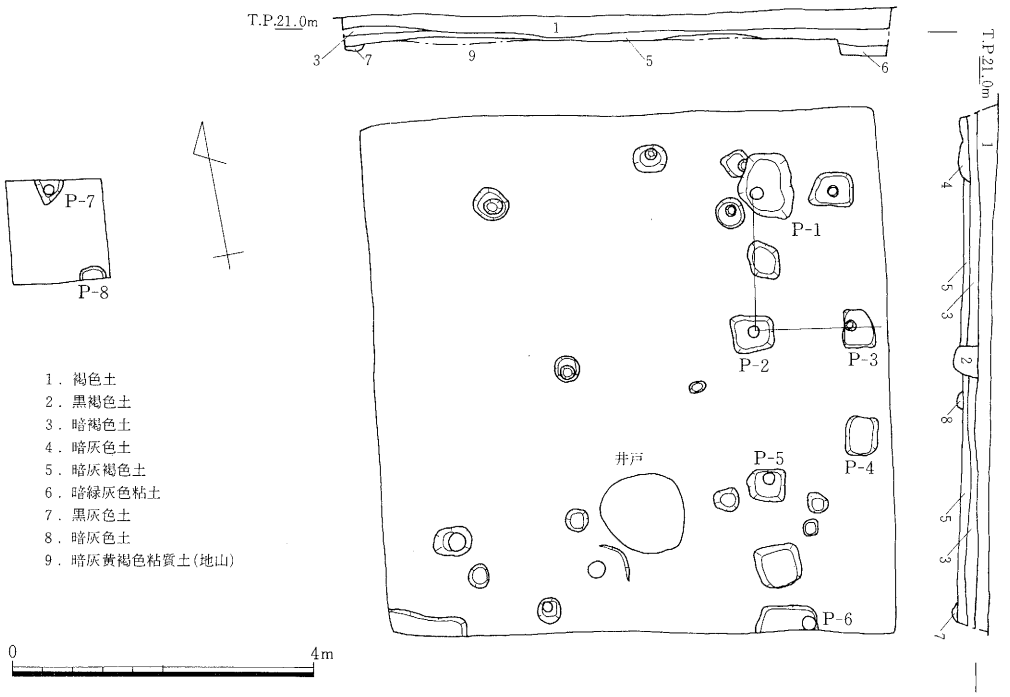
調査対象地北西部に1.5m四方の調査区を設定し、調査を開始したところ、地表下40㎝で暗灰黄褐色粘質土の地山に至り、ピットが2個検出された。建築予定建物の基礎深度が80㎝であり、設計変更が不可能ということであったため、建築予定地のほぼ全域に当たる7m四方の範囲を対象に発掘調査を実施することにした。その結果、井戸1基、ピット26個を検出し、石鏃、土師器、須恵器、陶磁器、瓦などが出土した。

土層は、上層から褐色土、暗褐色土、暗灰褐色土と続き、暗灰黄褐色粘質土の地山に至る。各土層とも、少量の土師器、陶磁器、瓦を含むが、最近の整地土と考えられる。

遺構は、いずれも地山に掘り込まれている。ピットは、円形のものと方形のものがみられる。円形のピットは、直径20～25㎝を測り、深さは5～20㎝である。柱跡の確認できるものは、直径10㎝前後である。掘立柱建物を構成するピットと考えられるが、柱の並びがわかるピットはみられない。また、埋土からは遺物も出土しておらず、時期も不明であるが、その大きさから考えると中世の遺構であろうか。



図－7　調査区位置図



図－８　平面図・土層図

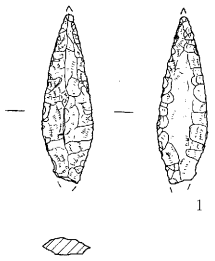
方形のピットは、一辺40～50㎝の規模であり、四辺はほぼ東西南北を示している。ピット－１～３は直角に並び、掘立柱建物の一部である可能性が高い。おそらく調査範囲外へ続いているのであろう。ピットの埋土は、黒灰色土、暗灰色土を呈するものが多い。ピット－１は、長辺84㎝、短辺70㎝、深さ20.5㎝を測り、やや不整形な平面形となる。柱の直径は17㎝である。ピット－２は、長辺54㎝、短辺50㎝、深さ29㎝を測り、柱の直径は14㎝である。ピット－３は、長辺50㎝、短辺43㎝、深さ７㎝を測り、柱の直径は14㎝である。それぞれの柱間寸法は、180㎝、130㎝となる。これ以外の方形ピットも掘立柱建物に伴うものと考えられるが、並びがわかるものはみられない。ピットの遺存状況が悪いので、削平されている可能性が高いものと考えられる。遺物は、ピット－２・５・６から、土師器片が少量ずつ出土している。ピット－６からは、８世紀中葉頃の土師器杯片が出土しており、わずか１点のみではあるが、これらの方形ピットの年代を示す遺物として注目される。

また、円形か方形か判断がつかないが、ピット－７からも土師器片が、ピット－８からは石鏃（１）が出土している。

ピット以外の唯一の遺構である井戸は、灰色粘土を埋土とし、多量の陶磁器、瓦（３～５）を含む近世の井戸である。直径100～110㎝の円形平面を呈し、壁面は垂直、素掘りの井戸である。１ｍほど掘削したところで、湧水が激しいこともあり、掘り下げを中止したが、更に下層へ続いている。近世と確認できる遺構はこれだけである。

図化できた遺物は、石鏃、土師器杯、擂鉢、瓦である。

石鏃（１）はサヌカイト製で、ピット－８から出土している。現存長4.45㎝、幅1.3㎝、厚さ0.4㎝、重さ2.4ｇ。柳葉状の外形を呈し、側縁には細かい刃をつけている。Ａ面は中央に稜線がとおり、全面に加工が施されるが、Ｂ面は自然面が広く残る。先端と茎部をわずかに欠く。



図－9　石鏃
（S＝1／2）

土師器杯（2）は、口縁部がわずかに外反し、端部で内側に巻き込むように肥厚する。内外面ともにヨコナデ調整、内面には放射状の暗文がみられる。調査区北半の地山直上から出土している。

備前焼の擂鉢（3）は、口径29.7㎝を測る。器壁は厚く、口縁は大きく肥厚する。口縁部外面には、2条の凹線がめぐる。体部内面には、12条1単位の幅3.8㎝の原体によって施された擂目がみられる。井戸からの出土遺物である。

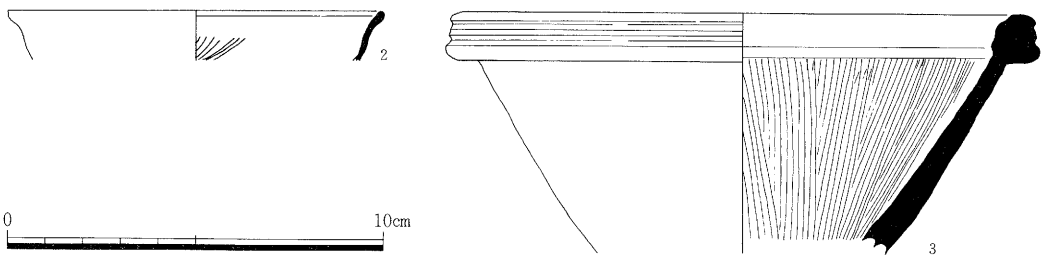
軒平瓦（4）は、均整唐草文軒平瓦であり、中心飾りから反転する主葉がのびる。外区は幅広の素文縁である。瓦当面の約半分を残しており、内区は2.5㎝×14.6㎝、瓦当面の大きさは4.2㎝×25.0㎝と復元できる。2㎜以下の長石を含み、焼成は良好、色調は灰色である。井戸から出土している。

平瓦（5）は全体の約80％を残す。長さ26.0㎝、幅22.5㎝、厚さ2.5㎝を測る。表面は平滑に仕上げられており、凸面、側面にはナデ調整が施されている。表面は黒灰色を呈するが、断面は灰色～灰白色を呈する。凸面中央付近は、表面の黒灰色が灰白色に変色している。これは、隣の瓦と重なる部分が磨滅によって、断面の色調が表面に現れたためと考えられる。やはり、井戸から出土したものである。

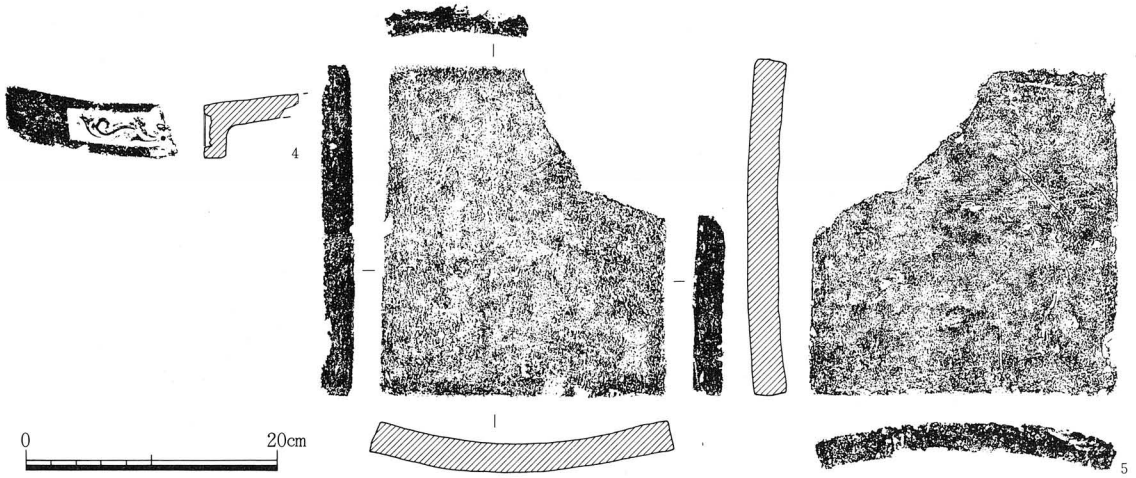
以上を整理すると、今回の調査では、8世紀代と考えられる方形ピットから成る掘立柱建物、中世かと考えられる円形ピットから成る掘立柱建物、そして近世の井戸の3時期の遺構を確認できたことになる。

昨年度に、今回の調査地の南隣で調査を実施しており、その際にもピット3個が確認されている。また、遺物は7世紀代の瓦、8世紀代の土師器、瓦器などが出土しており、今回の調査結果に一致するものである。また、やはり昨年度に実施した今回の調査地北東50m地点での調査においても、7世紀代の瓦、近世の陶磁器などが出土している。

これら過去の調査成果も含めて検討すると、7世紀代の瓦は家原寺と推定されている安堂廃寺に伴う瓦と考えられる。安堂廃寺は今回の調査地の東約100m付近がその中心と考えられ、調査地周辺は寺域外と考えられるが、西側へ緩やかに傾斜する地形等を考慮すると、安堂廃寺の瓦が調査地周辺まで整地等に際して運ばれたものと考えられる。



図－10　出土土器



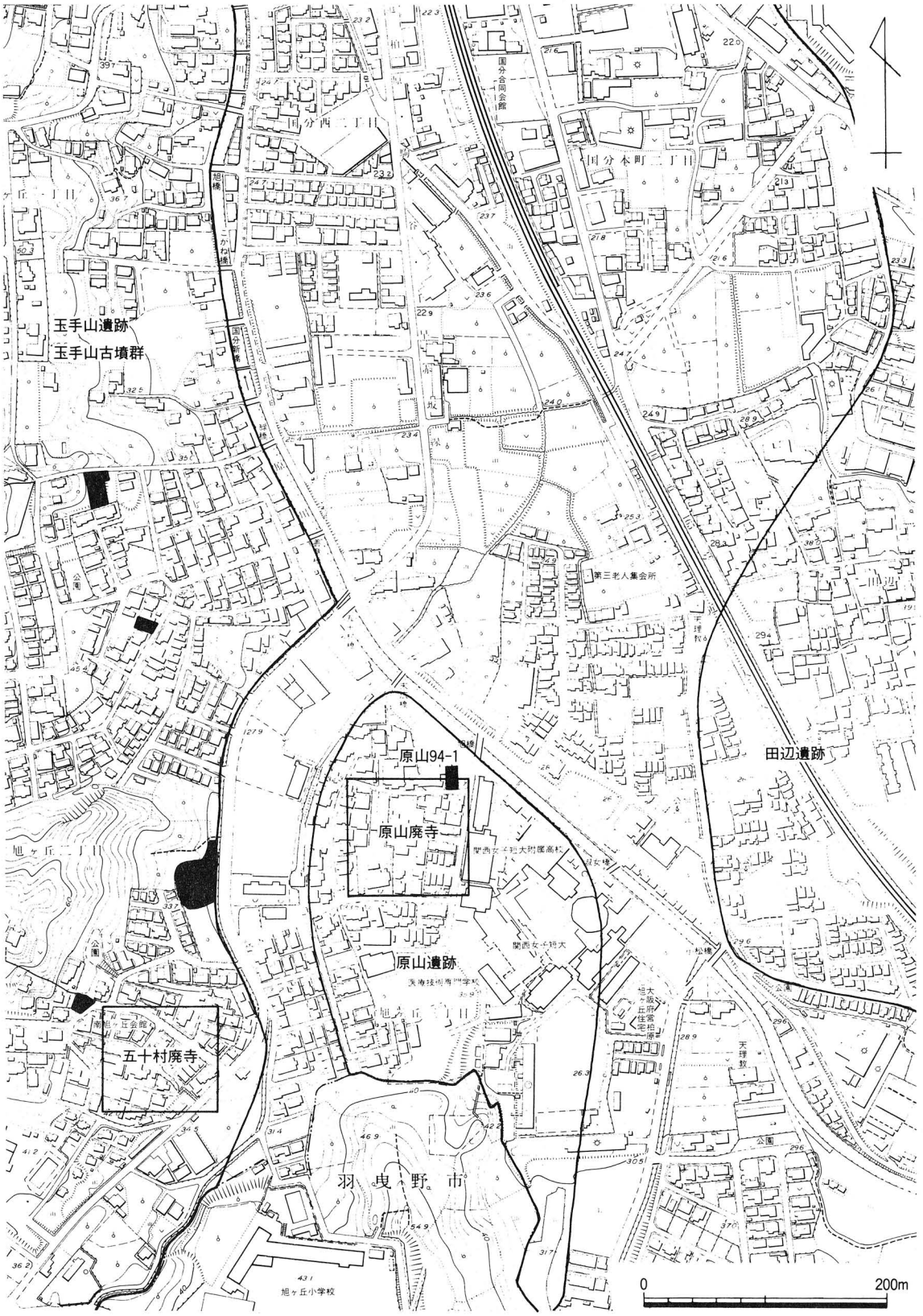
図一11　出土瓦

8世紀代の遺構は、遺物を伴い、調査地の北から北西にかけてかなり広範囲にわたって掘立柱建物が存在するようである。この地は、知識寺南行宮の推定地にも当り、8世紀代の遺構の存在と無関係とは考えられない。行宮に直接結びつく遺構はまだ発見されていないが、調査地の北西150mの地点からは木簡や建築廃材が出土するなど、行宮に関係するかもしれない遺物等も出土している。奈良時代には聖武天皇や孝謙天皇らが知識寺などを巡拝するなど、当地は華やかな歴史の舞台となった地である。それゆえ奈良時代の遺構が多いことも当然ではあるが、行宮の位置の特定も含み、調査地周辺の奈良時代の遺構把握は重要な課題である。

平安時代の遺構・遺物は確認できないが、中世になると少量ではあるものの遺構・遺物が検出されている。また、近世になると、遺構の検出は少ないが、遺物はかなり出土するようになる。おそらく、現在の集落は近世にかたち造られたものと考えられ、近世の集落と現在の集落は重複しているものと思われる。

調査地周辺の状況は、以上のように、徐々にではあるが、明らかになってきた。また、調査地によって、遺跡の深度がかなり異なっていることも確認されつつある。今回の調査地付近は、太平寺から安堂にかけての範囲においては、現地表面からの深度が最も浅いようであり、今後も注意を要する地域である。

第４章　原山遺跡



図－12　調査対象地位置図

94－1次調査

・調査対象地　　柏原市旭ケ丘3丁目4839－5

・調査期間　　1994年7月7日

・調査面積　　2.3㎡／207.63㎡

・調査担当者　　安村俊史

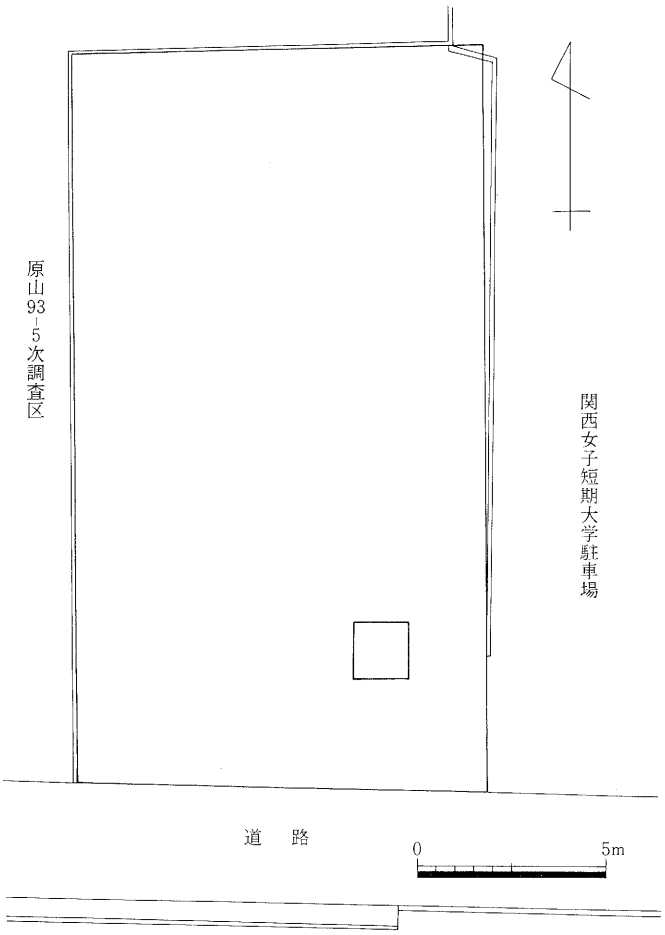
調査対象地南東部に1.5m四方の調査区を設定し、調査を実施した。地表下20～30㎝で黄褐色砂礫土の地山に至り、地山までは、すべて盛土である。

調査区の南東隅で、ピットを1個のみ確認した。ピットは直径約30㎝の円形平面を呈し、深さは約20㎝である。埋土は灰褐色砂質土。土師器の小片が2点のみ出土している。器種は不明、時期も確認できないが、おそらく7～8世紀頃の土師器と思われる。

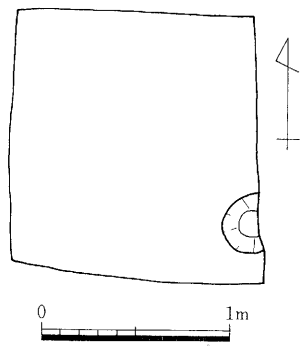
盛土内からも、少量の土師器とサヌカイトの原石が出土している。サヌカイト原石は、田辺丘陵の地山中にみられるものであり、田辺遺跡からもしばしば出土するものである。これ以外には、遺物は出土していない。

唯一の遺構であるピットは、7～8世紀の掘立柱建物に伴うものと考えられるが、今回の調査区内では、これ以外にはピットを検出できなかった。地山は、北側へ緩やかな傾斜で低くなっており、建築予定建物の基礎は地山面まで達しないと判断されたため、建築工事中に立ち会うことを条件に、調査範囲の拡張は行わなかった。工事中の立ち会いの結果、やはり建物の基礎は、地山に達することなく、盛土内に納まることを確認した。

今回の調査地の西隣でも、昨年度に調査を実施している。その調査では、地山までの深さが地表下60㎝前後であったが、現地表面が今回の調査地よりも少し高いため、地山面の標高はほとんど変わらないと考えられる。また、今回の調



図－13　調査区位置図



図－14　平面図

査地と道路を挟んだ南側でも過去に調査を実施しており、ピットなどを検出している。いずれも７～８世紀代の遺構と考えられ、その時期の建物群が存在したようである。しかし、調査地周辺は原山廃寺の推定寺域内、もしくは寺域北東部に接する地に当たると考えられ、この地域に建物が存在することに疑問を覚えざるを得ない。さらに、これらのピットが非常に規模の小さいものであることも疑問を大きくするものである。

また、昨年度の調査地からは20㎝前後の厚さの遺物包含層が確認されており、多数の瓦が出土しているが、今回の調査地ではこの遺物包含層が確認できず、瓦も全く出土していない。おそらく、後世に削平されたものと考えられる。

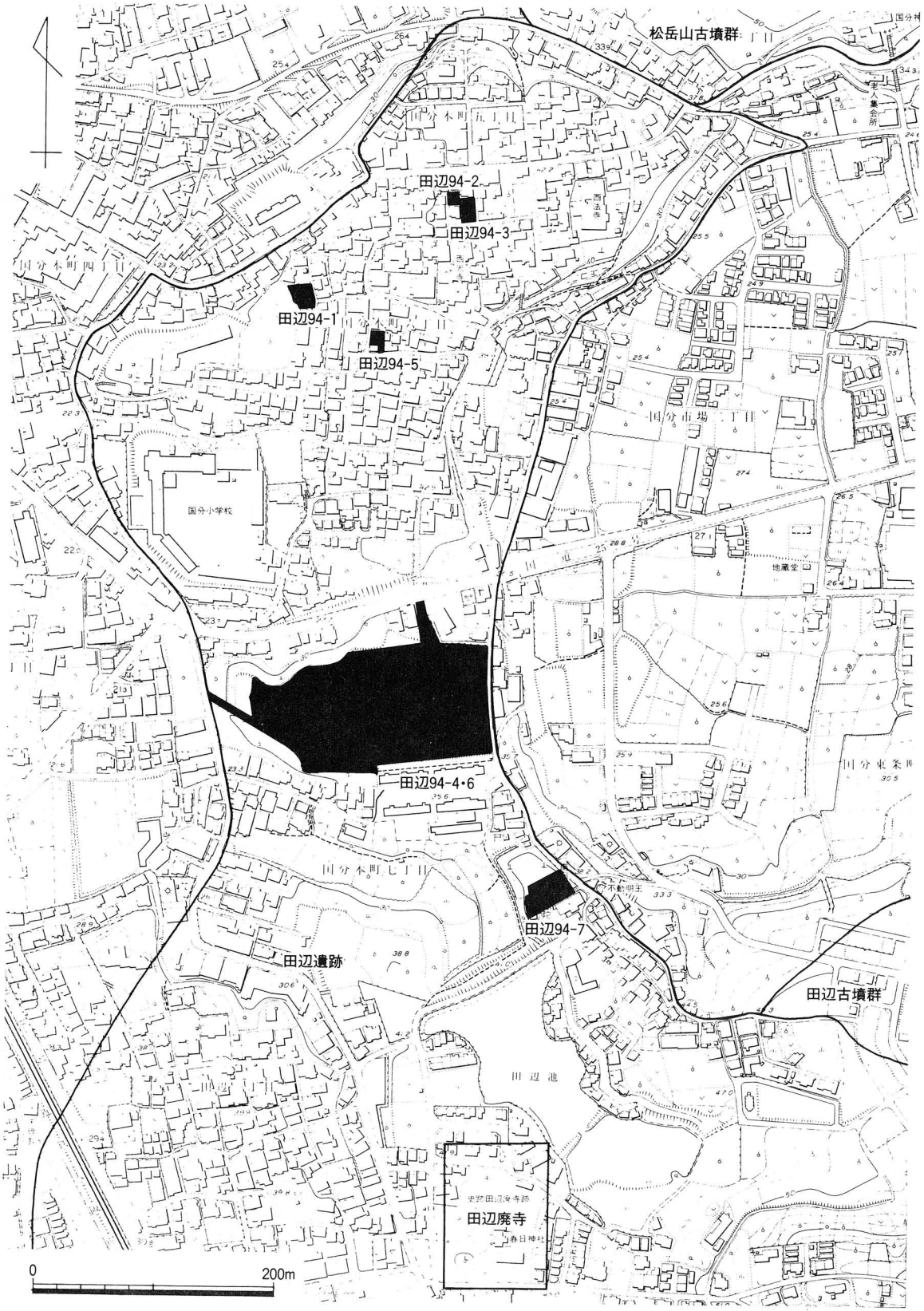
これまでの原山遺跡、および原山廃寺の調査結果から考えると、今回の調査地の南西部に原山廃寺の伽藍が存在したようであるが、かなり削平を受け、ほとんどその遺構をとどめていないようである。創建は７世紀中葉～後葉にかけてと推定され、８世紀代の瓦もかなり出土していることから、奈良時代にもかなり改修されているようである。

寺院に並行して、その周囲に建物群も存在したようである。今回の調査は、その一端を示すものである。しかし、その規模、範囲等は十分には確認できていない。

これに先行して、５～６世紀代の遺物が原山廃寺南側から出土している。遺構の状況はよくわからないが、その時期の集落が存在したようである。

最近の調査によって、原山遺跡、および原山廃寺の状況について、以上のようなことが確認できるようになった。遺跡の残存状態は非常に悪いが、今後の調査によって、更に遺跡の状況が確認できるようになると思われる。

第５章　田辺遺跡



図－15　調査対象地位置図

94－1次調査

・調査対象地　　柏原市国分本町6丁目1463の一部

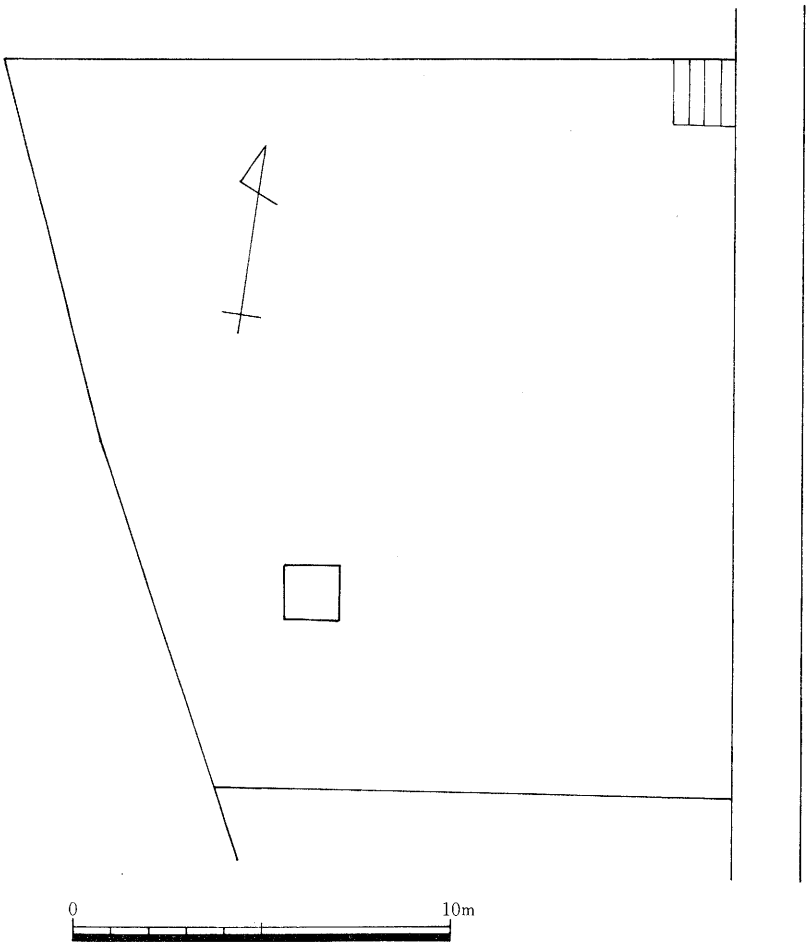
・調査期間　　1994年3月17日

・調査面積　　2.3㎡／302.67㎡

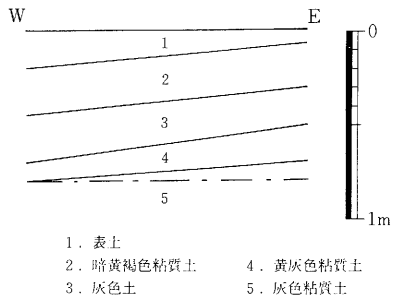
・調査担当者　　安村俊史

調査地は、田辺遺跡の北西部に位置し、丘陵の西端にあたる。調査地の西側は大きく落ち込んで国分駅周辺の原川によって形成された低湿地へと続く。

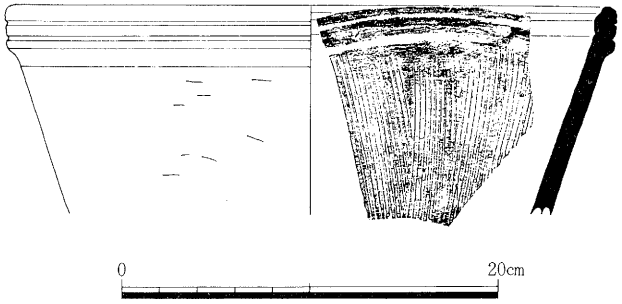
調査は、調査対象地南西部に1.5m四方の調査区を設定して実施した。土層は5層に分けることができ、上層から表土、暗黄褐色粘質土、灰色土、黄灰色粘質土、灰色粘質土である。土層は、いずれも地形に従って、西側への傾斜をもって下がっている。地表下60㎝まで掘り下げた後に、調査区北端で更に20㎝余りの深さまで掘り下げた。地表下70～80㎝で達する灰色粘質土は、近世の遺物包含層であるが、その上層の一部を掘り下げたのみで、詳細は不明である。また、遺構も検出していない。建築予定建物の基礎深度が盛土内に納まるため、これ以上の掘り下げ、および調査区の拡張は行わなかった。



図－16　調査区位置図



図－17　土層模式図



図－18　出土遺物

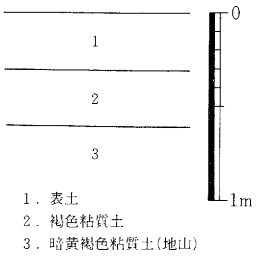
灰色粘質土からは、近世の陶磁器、瓦などが出土している。図化したものは、擂鉢１点のみである。擂鉢は、体部が直線的にのび、口縁部は段をなして肥厚する。口縁外面には沈線状の凹線が２条めぐっている。口縁内面は、内側へふくらんでいる。口縁部はヨコナデ、体部外面はヘラケズリ、内面には2.9㎝幅の原体による11条１単位の擂り目がみられる。復元口径32.5㎝を測り、焼成は良好、橙色を呈する。胎土は長石を含み、やや粗である。

田辺遺跡では、これまでは古墳時代から奈良時代にかけての遺構・遺物が中心であり、近世の遺物はあまり出土していない。今回の調査で新たな資料を提示することができ、今後の調査の一つの方向を示すことができたと考えている。しかし、今回の調査でも遺物包含層の一部を調査したのみで、遺構の確認はできていないので、近世の遺跡の実態は不明である。国分本町は、旧奈良街道沿いに近世以後栄えた街であり、今も街道の面影を残す町並みが一部にみられる。近世の集落は、おそらく現在の町の下に重なって埋もれているのであろう。

今回の調査では、地山まで掘り下げていないので、丘陵西端のこの周辺まで古墳時代から奈良時代にかけての集落が広がっているかどうかは、確認できなかった。これについては、今後の課題として残しておきたいと思う。

94－3次調査

- 調査対象地　　柏原市国分本町5丁目1515の一部
- 調査期間　　1994年3月22日
- 調査面積　　2.3㎡／172.92㎡
- 調査担当者　　安村俊史

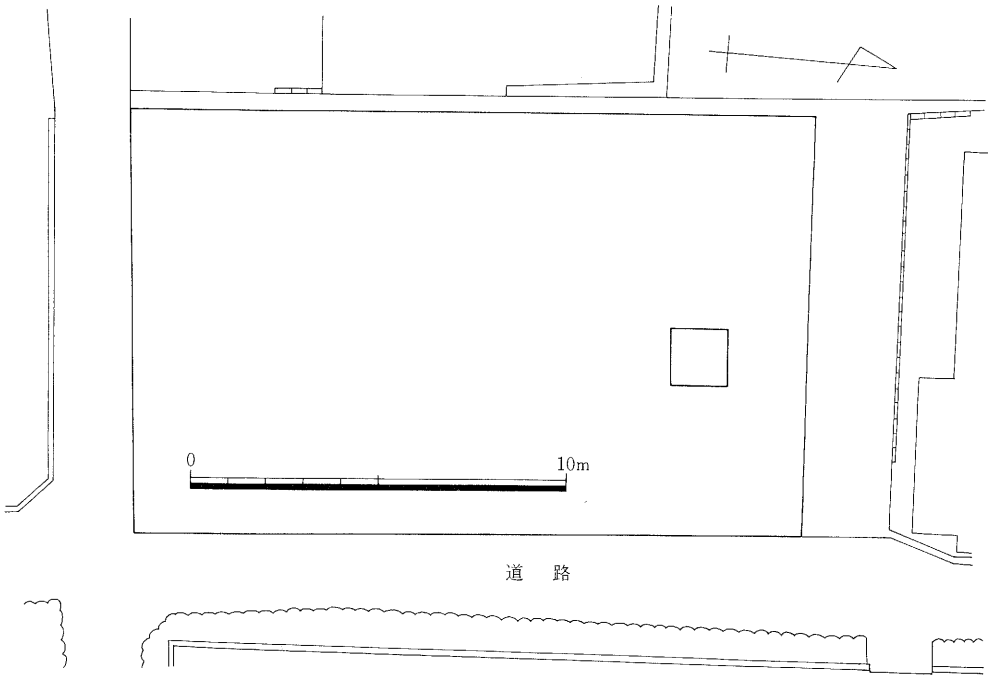


図－19　土層模式図

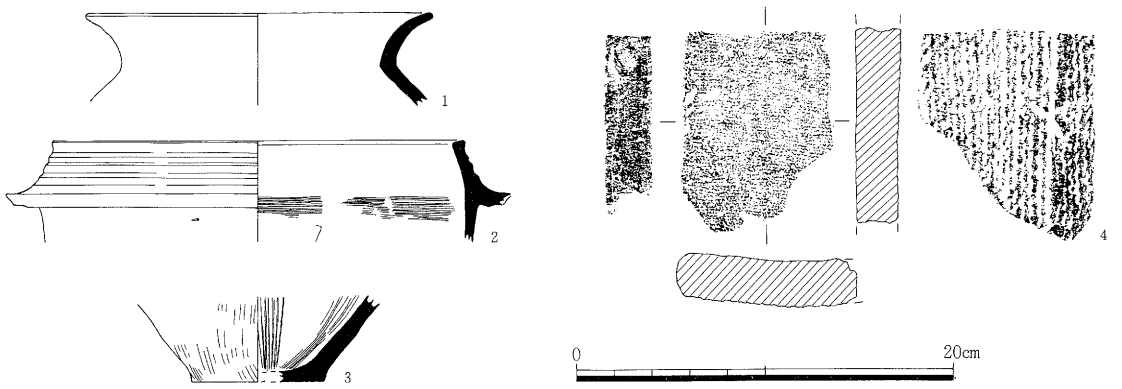
調査対象地の北寄りに、1.5m四方の調査区を設定し、調査を実施したところ、地表下60㎝まで掘り下げたところで、地山に達した。地表から約30㎝までは表土、その下に褐色粘質土がみられ、この褐色粘質土からは、土師器、須恵器、瓦器、瓦などがかなり出土しており、古墳時代から中世にかけての遺物包含層であることが確認できた。その下層にある暗黄褐色粘質土が地山であり、地山直上には、5～20㎝大の礫が多数みられる。遺物も地山直上から最も多く出土するが、遺構は確認できていない。また、調査区西端で、地山が急激に落ち込んでいるようであるが、これは後世の削平に伴うものと考えることができる。

遺物は6世紀から7世紀にかけての土師器、須恵器、8世紀の瓦、中世の瓦器、瓦質土器、近世の陶磁器、キセルなどである。いずれも褐色粘質土から出土したものである。

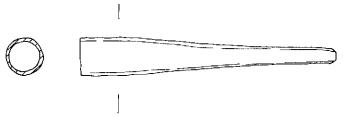
土師器の甕（1）は、頸部ですぼまり、外反する口縁は端部を丸くおさめる。復元口径は18.7㎝、色調は淡橙色を呈する。内外面が著しく風化しており、調整方法は確認できない。これ以外にも、甕、羽釜、鍋、高杯など多数の土師器が出土しているが、いずれも残存状態が悪く、図化できなかった。



図－20　調査区位置図



図一21　出土遺物



図一22　キセル（S＝1／2）

瓦質の羽釜（2）は、水平にのびる短い鍔を伴うが、端部を欠いている。口縁はヨコナデによって3段の段をなしている。体部外面はヘラケズリ、内面は横方向のハケ調整を施している。復元口径は22.6㎝、焼成は良好、暗青灰色を呈する。

瓦質の擂鉢（3）は、平底から体部は斜め上方にまっすぐ立ち上がる。底部外面、および体部内面はナデ調整、体部外面は指頭調整の後に4本／㎝のハケメ。体部内面には、原体幅1.75㎝、6条1単位の擂り目がみられる。

平瓦（4）は、凸面に3条／㎝の縄目叩きが施されており、凹面には7条／㎝の布目が残っている。側縁は、3回のヘラケズリを施して調整している。凹面の観察から、一枚作りの平瓦と考えられる。

キセルの吸い口は、銅製で、全面に緑青の噴き出しがみられる。長さ6.8㎝、幅0.5～1.0㎝、厚さは0.1㎝である。

調査区内では、遺構は検出されていないが、調査地周辺に6世紀から7世紀にかけての集落が存在することは間違いないであろう。当調査地の西に隣接する94－2次調査区でも、当調査地と同一の褐色粘質土が確認されているが、遺物量は少なく、遺構も確認されていない。やはり土師器、須恵器が出土しており、同時期の遺跡の広がりが予想されるものの、その実態はきわめて不明確である。今後の調査に注目していきたい。

94－5次調査

・調査対象地　　柏原市国分本町6丁目1464－1

・調査期間　　1994年10月3日

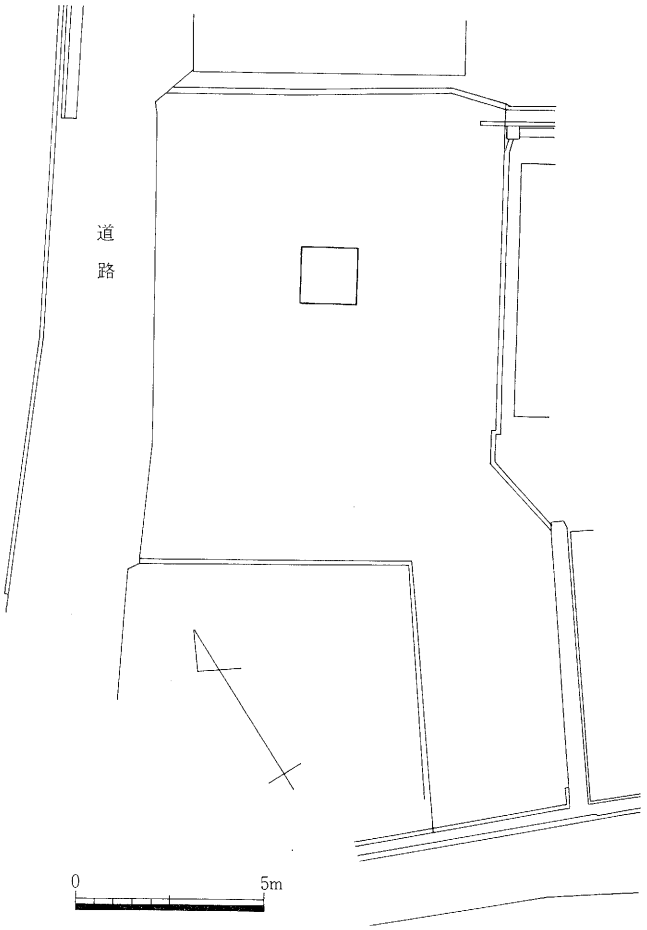
・調査面積　　2.3㎡／133.58㎡

・調査担当者　　安村俊史

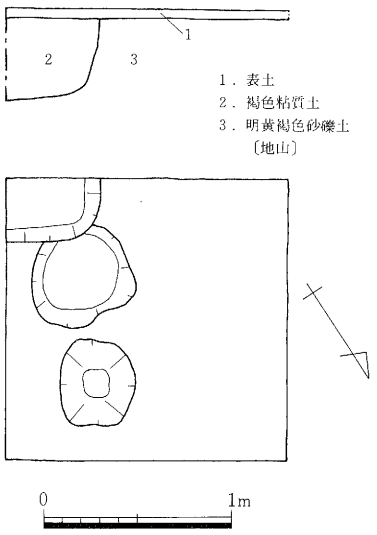
調査対象地中央に1.5m四方の調査区を設定し、調査を実施。地表下20㎝までで明黄褐色もしくは赤褐色の砂礫土の地山に至る。部分的には現地表面に地山が露出しているところもみられる。

地山面では、3個のピット状の遺構が検出された。遺構は北から直径30㎝の円形ピット、直径50㎝の円形ピットが接するようにあり、その南には、このピットを切って方形と思われる遺構が存在する。円形のピットは深さ20㎝前後を残すにすぎないが、方形の遺構は約40㎝の深さを測る。

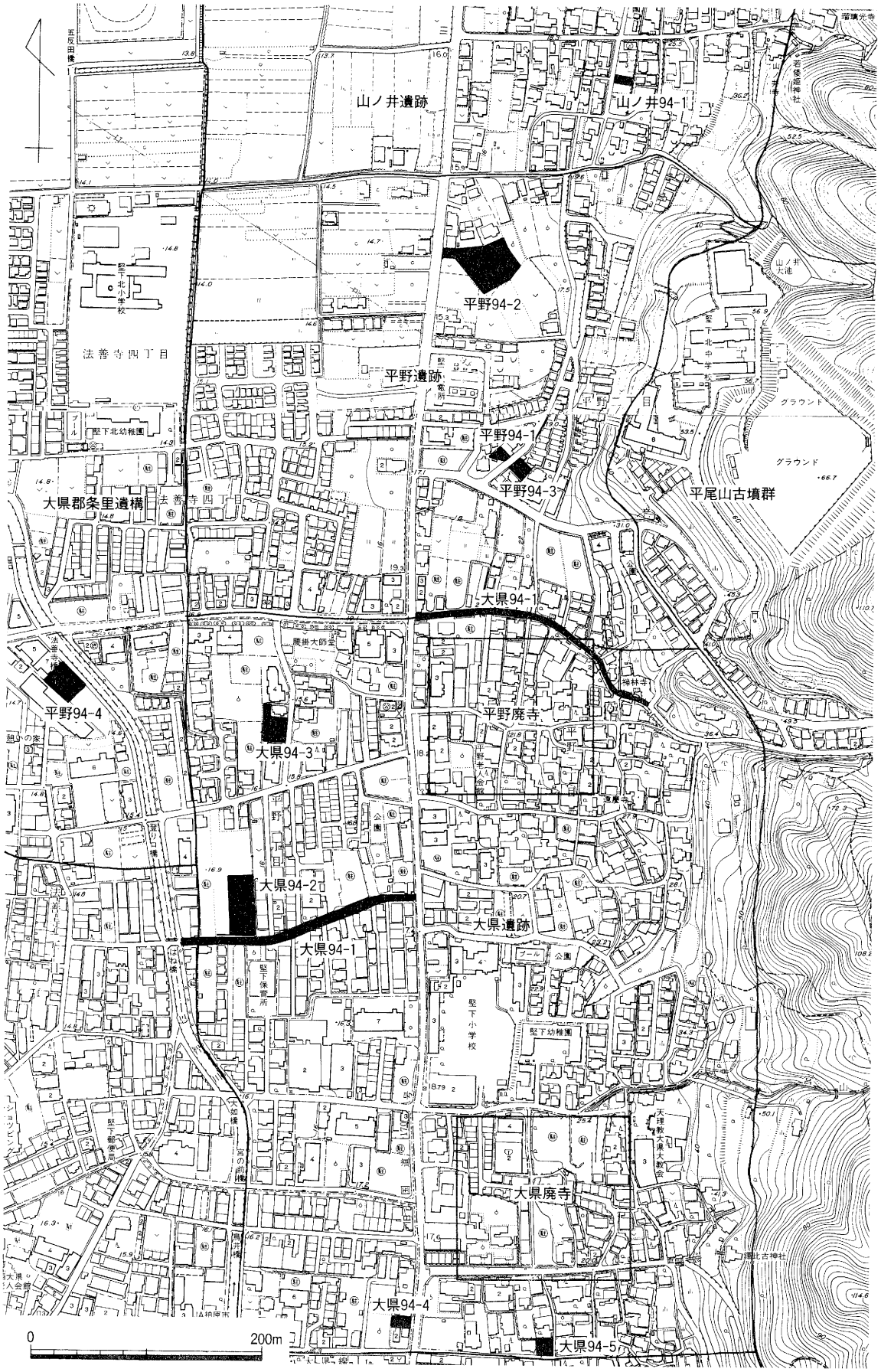
ピット内からは土師器の小片がごく僅かに出土しているのみで、時期は確認できない。ピットも掘立柱建物に伴うものかと考えられるが、これも確認できていない。調査地周辺は、これまでにかなり削平を受け、遺跡の残存状態は非常に悪いようである。



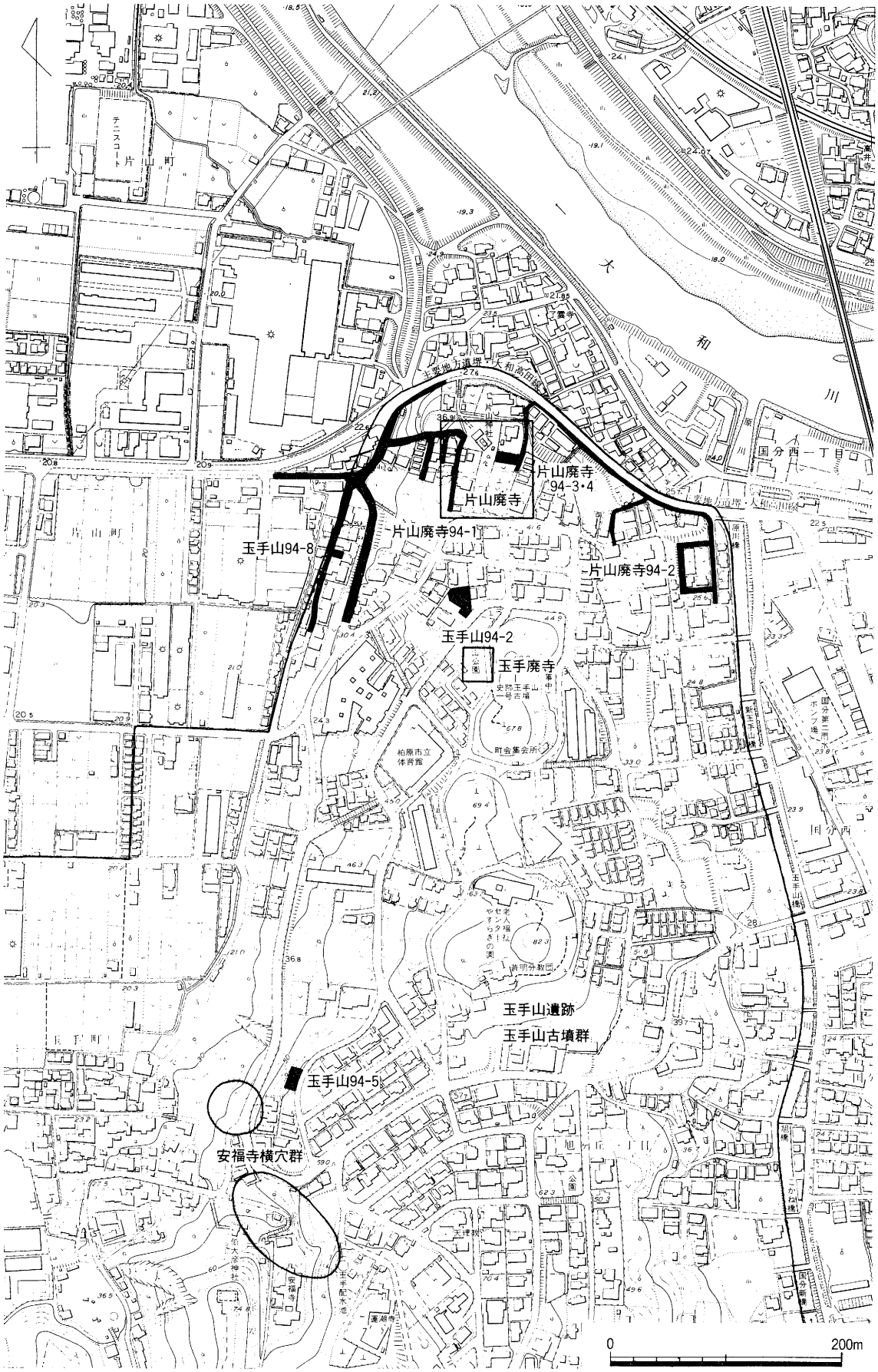
図－23　調査区位置図



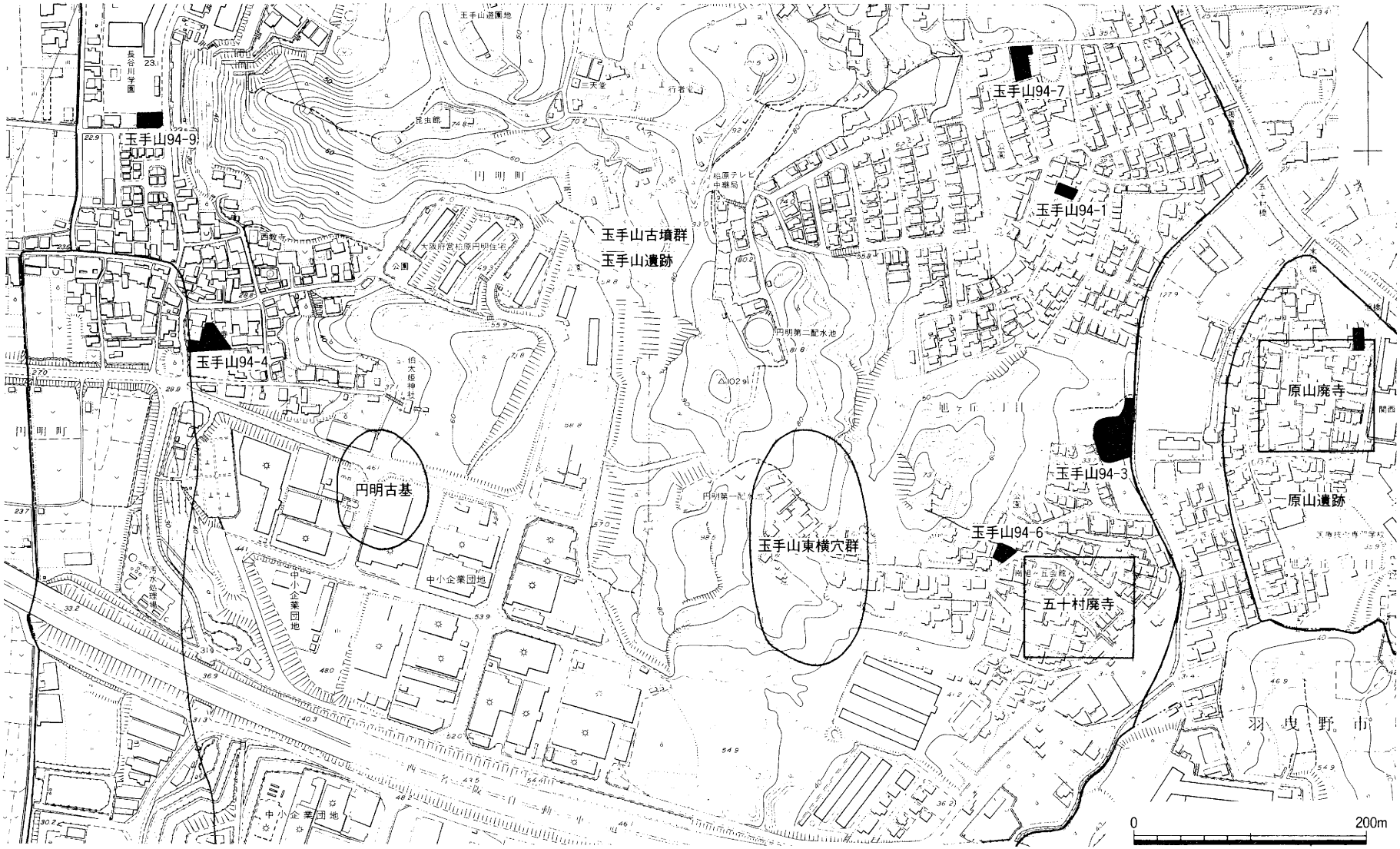
図－24　平面図・土層図



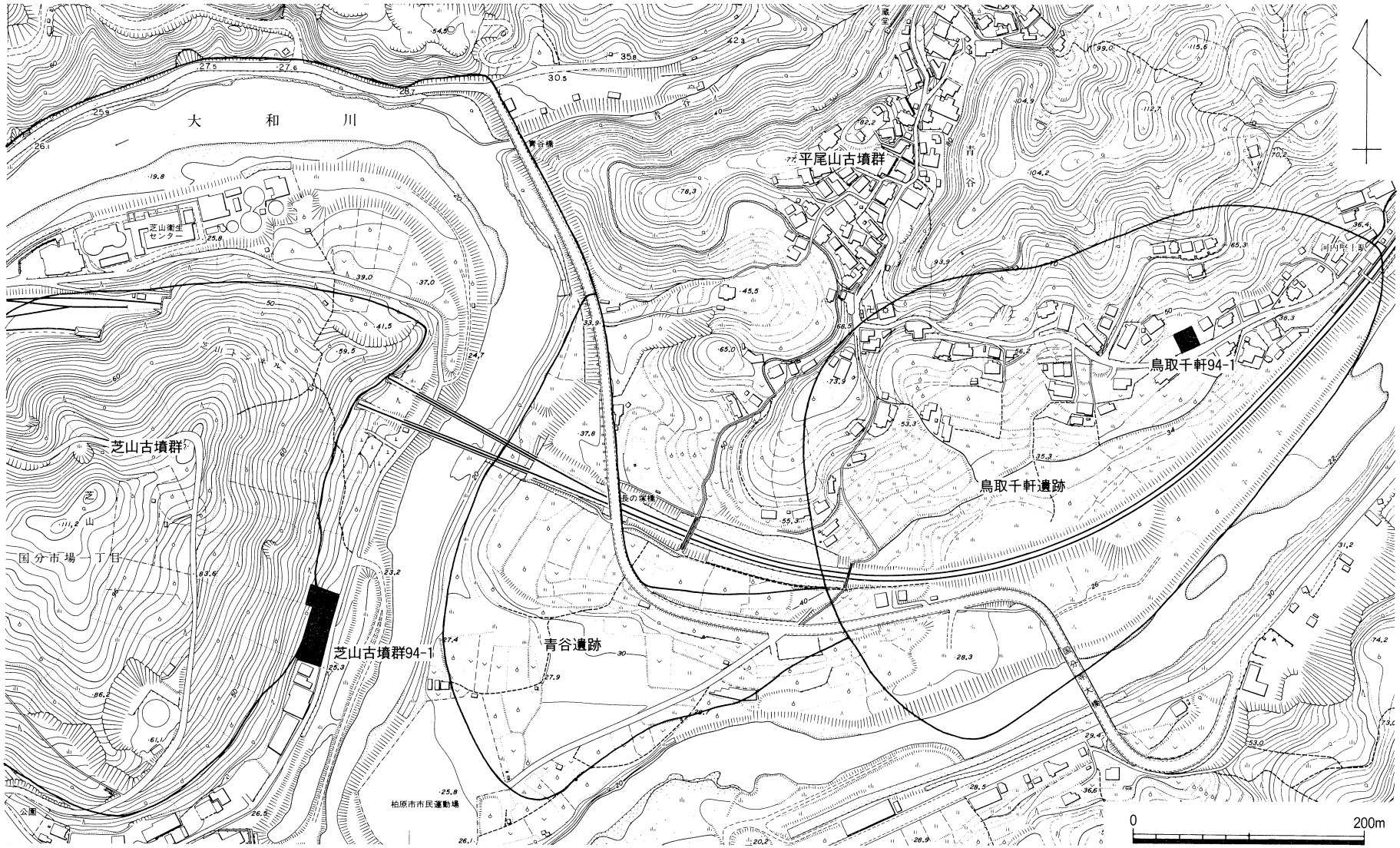
図－25　山ノ井・平野・大県遺跡調査対象地位置図



図－26　玉手山遺跡調査対象地位置図



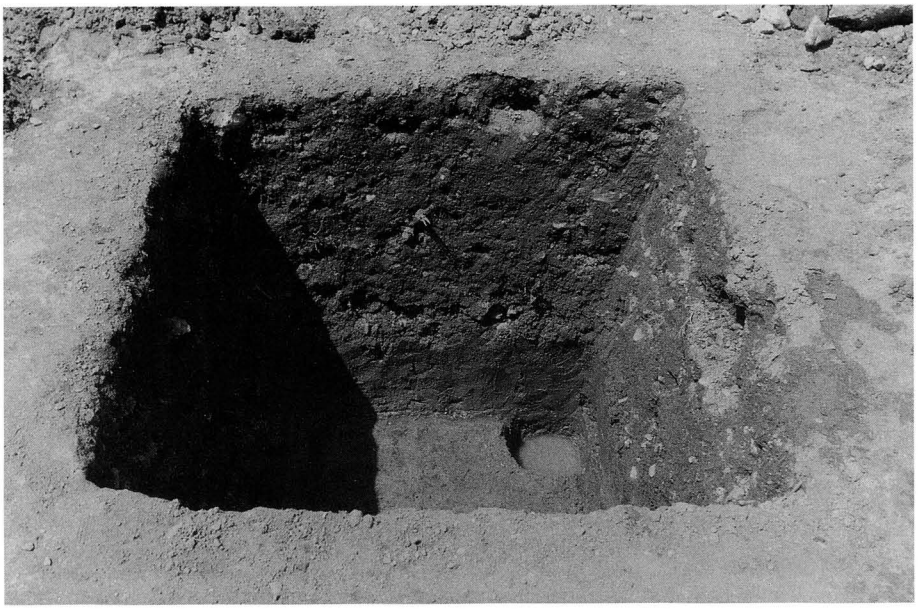
図－27　玉手山遺跡調査対象地位置図



図－28　鳥取千軒遺跡・芝山古墳群調査対象地位置図

図　　版

図版1　本郷遺跡94—2次調査

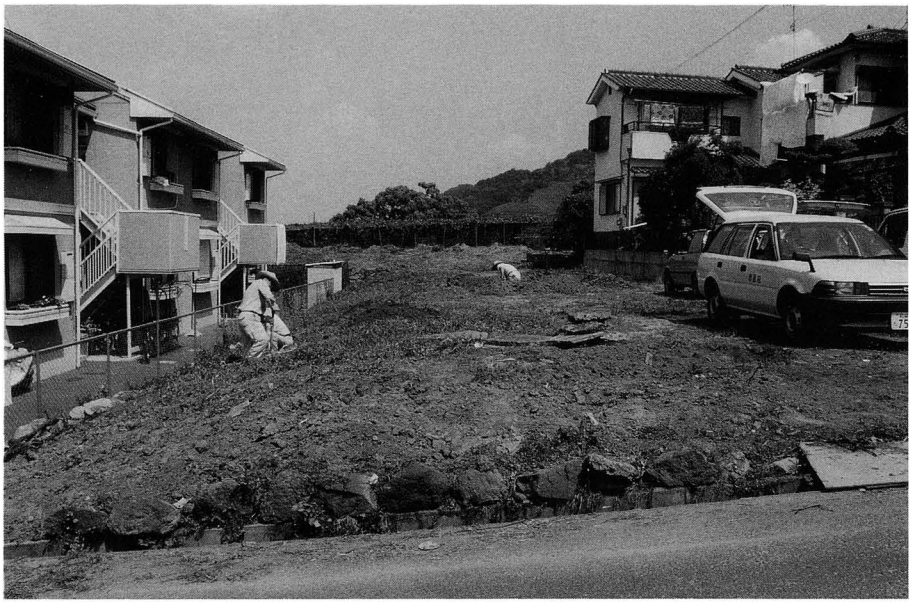


調査区（南から）

土層断面（東から）

土層断面（北から）

図版2　太平寺遺跡94—2次調査



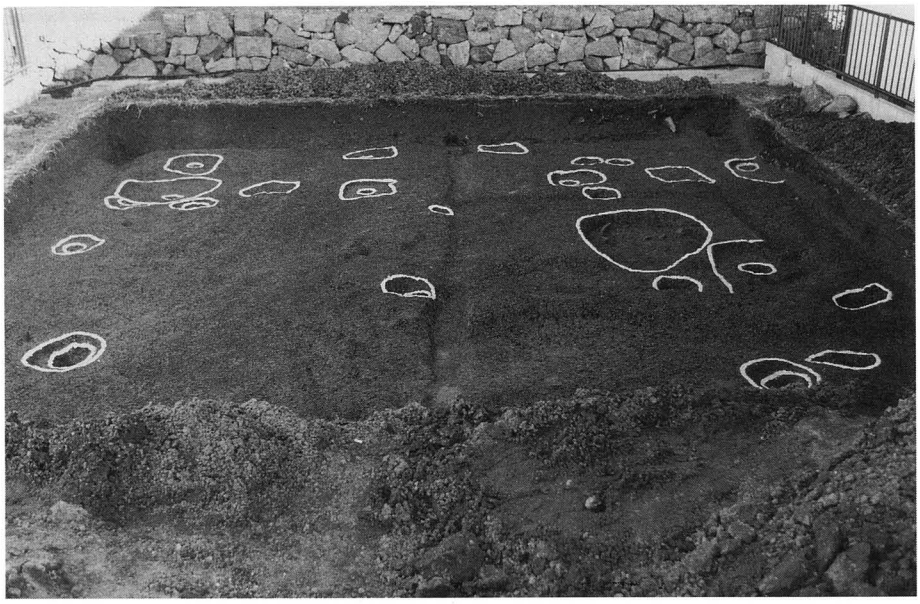
対象地近景
（南から）

調査1区（南から）

調査3区
（南西から）

図版3　安堂廃寺94—1次調査

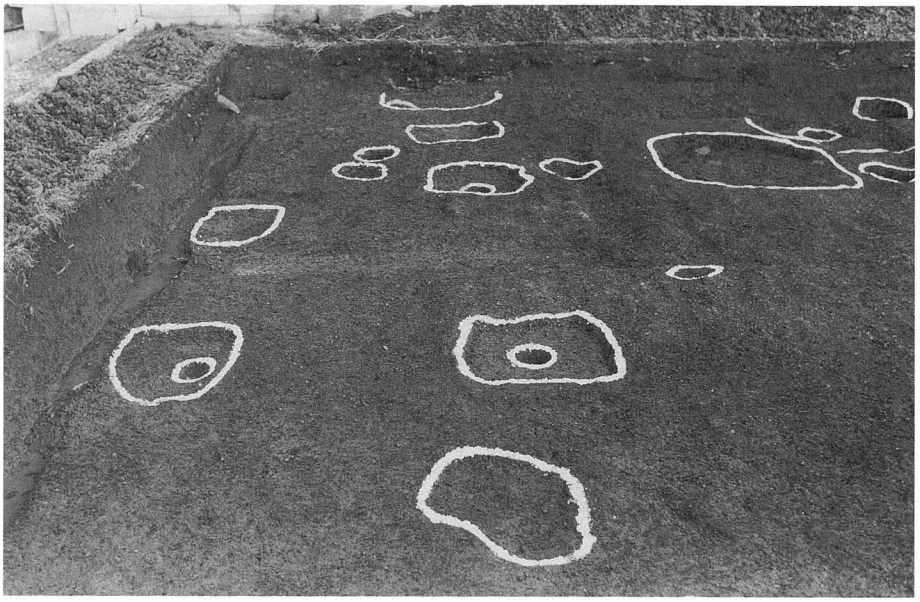
西側調査区
（北から）



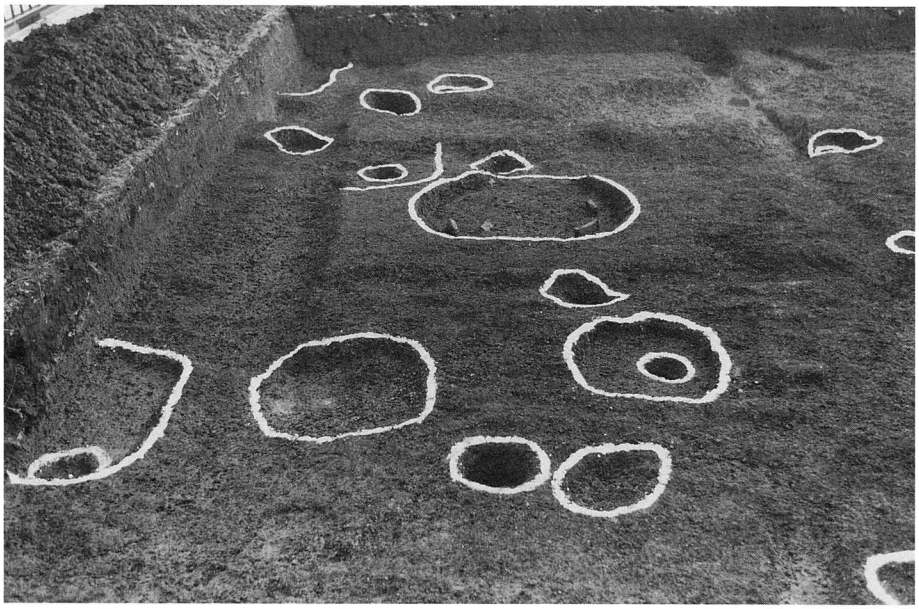
調査区全景
（西から）

土層断面（西から）

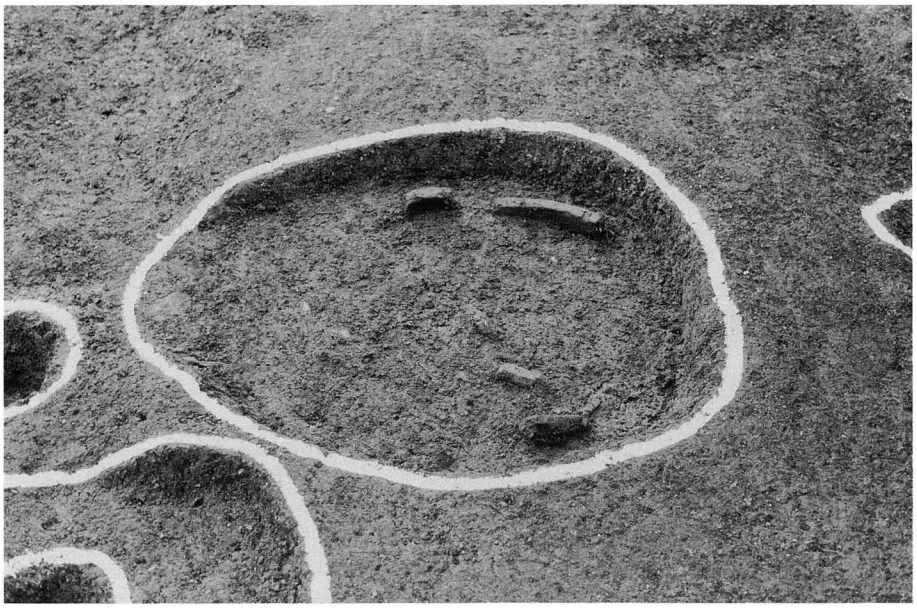
掘立柱建物
（南から）



調査区南東部
（北から）



調査区南部
（東から）



井戸検出状況
（南から）

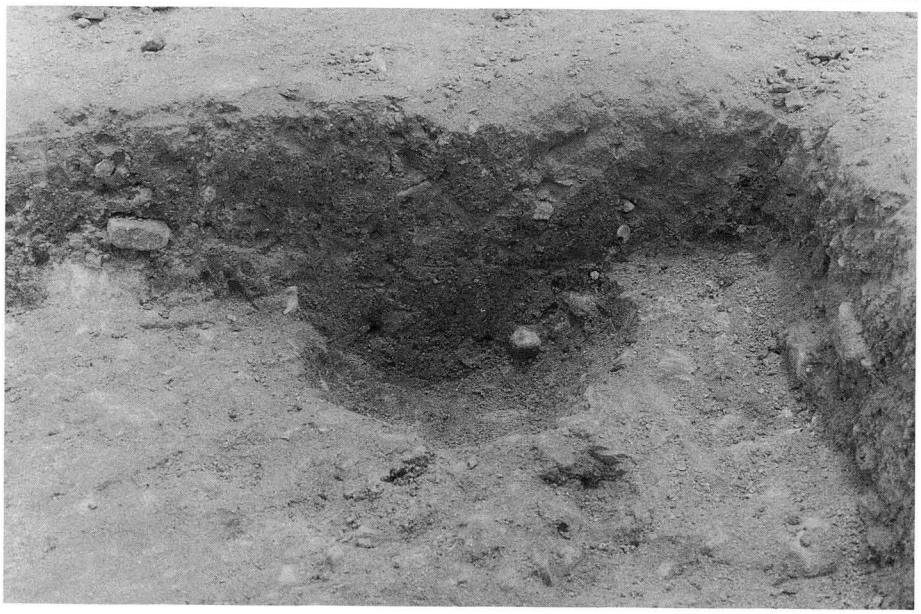
井戸半掘状況
（南から）

井戸完掘状況
（南から）

図版6　原山遺跡94—1次調査

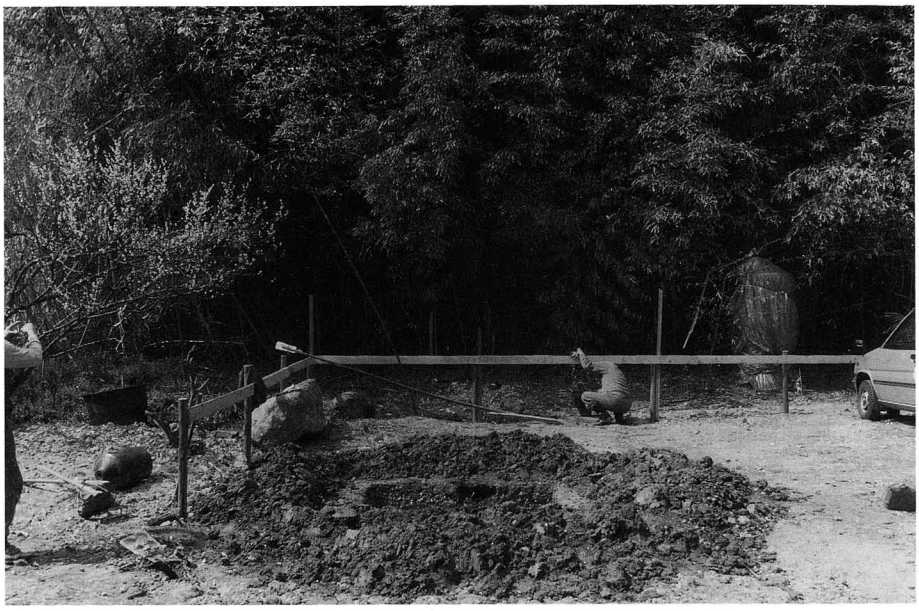
調査区（南から）

調査区（西から）



ピット（西から）

図版7　田辺遺跡94—1次調査



調査区全景
（東から）

調査区（東から）

土層断面（南から）

図版8　田辺遺跡94－3次調査

調査区（南から）

調査区（西から）

土層断面（西から）

図版9　田辺遺跡94－5次調査

調査区（東から）

調査区（北から）

調査区（西から）

報告書抄録

ふりがな	かしわらしまいぞうぶんかざいはっくつちょうさがいほう
書名	柏原市埋蔵文化財発掘調査概報1994年度
副書名	
巻次	
シリーズ名	柏原市文化財概報
シリーズ番号	1994－Ⅰ
編著者名	安村俊史、石田成年
編集機関	柏原市教育委員会
所在地	〒582 大阪府柏原市安堂町１番43号　TEL 0729-72-1501
発行年月日	1995年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
ほんごう 本郷	おおさかふかしわらし 大阪府柏原市 ほんごう 本郷３丁目	27221	ＨＧ94－２	34度 35分 20秒	135度 37分 10秒	19940615	2.3	個人住宅建設
たいへいじ 太平寺	たいへいじ 太平寺２丁目	27221	ＴＧ94－２	34度 34分 40秒	135度 38分 10秒	19940829～ 19940830	10	共同住宅建設
あんどうはいじ 安堂廃寺	あんどうちょう 安堂町	27221	ＡＤ94－１	34度 34分 40秒	135度 38分 00秒	19940117～ 19940126	51	個人住宅建設
はらやま 原山	あさひがおか 旭ケ丘３丁目	27221	ＨＹ94－１	34度 33分 20秒	135度 38分 20秒	19940707	2.3	個人住宅建設
たなべ 田辺	こくぶほんまち 国分本町６丁目	27221	ＴＢ94－１	34度 33分 50秒	135度 38分 30秒	19940317	2.3	個人住宅建設
たなべ 田辺	こくぶほんまち 国分本町５丁目	27221	ＴＢ94－３	34度 33分 50秒	135秒 38分 40秒	19940322	2.3	個人住宅建設
たなべ 田辺	こくぶほんまち 国分本町６丁目	27221	ＴＢ94－５	34度 33分 50秒	135秒 38分 40秒	19941003	2.3	個人住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
本郷	集落	奈良～中世	溝	土師器、須恵器、瓦器	
太平寺	集落	飛鳥	なし	瓦	
安堂廃寺	寺院跡	弥生～近世	ピット、井戸	石鏃、土師器、須恵器、陶磁器、瓦	
原山	集落	飛鳥～奈良	ピット	土師器	
田辺	集落	近世	なし	陶磁器、瓦	
田辺	集落	飛鳥～奈良	なし	土師器、須恵器、瓦器、瓦	
田辺	集落	飛鳥～奈良	ピット	土師器	

柏原市埋蔵文化財発掘調査概報

1994年度

編集・発行　柏原市教育委員会
〒582大阪府柏原市安堂町１番43号
電話（0729）72－1501　内線5133

発行年月日　平成７年３月31日

印　　刷　株式会社　中島弘文堂印刷所